中医協　検－３－１
３　．　３　．　２　４

精神医療等の実施状況調査（その１）
報告書（案）＜概要＞

調査の概要①

1　調査の目的

○　令和2年度診療報酬改定において、地域移行・地域生活支援の充実を含む質の高い精神医療を評価する観点から、入院医療から外来・在宅医療まで様々な見直し・評価の新設等が行われた。

○　本調査は、これらのうち、「質の高い入院医療の評価」、「精神病棟における地域移行の推進」、「地域移行・地域定着に資する継続的・包括的な支援に対する評価」、「適切な精神科在宅医療の推進」を中心に、改定に係る影響や関連した取組の実施状況等について調査・検証を行うことを目的とした。

2　調査の対象

①　病院票

病院　1,000施設を対象とした。

（抽出条件）

・地域移行機能強化病棟入院料を算定する病院　約50施設（悉皆）

・精神科救急入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神科救急・合併症入院料を算定する病院　約500施設（悉皆）

・精神病棟入院基本料、精神科急性期医師配置加算を算定している病院（悉皆）

・精神科リエゾンチーム加算あるいは精神科急性期医師配置加を算定している病院（悉皆）

・精神科在宅患者支援管理料の届出を行っている病院　約100施設（悉皆）

・精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定する病院から無作為抽出（上記に該当しない医療施設より抽出）

調査の概要②

２　調査の対象（続き）

②　病棟票

・病院票の対象施設に、以下の入院基本料等を届け出ている病棟について、それぞれ以下について回答を求めた。

a. 精神科救急入院料 b. 精神科急性期治療病棟入院料 c. 精神科救急・合併症入院料	・a、b、cの届出を行っている全病棟について記入。
d. 精神病棟入院基本料 （10対1、13対1、15対1） e. 精神料療養病棟入院料	・d、eの届出を行っている病棟より、1棟を選択の上記入。

③　入院患者票

・病院票の対象施設に、精神科救急入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神科救急・合併症入院料を算定している患者3名、精神病棟入院基本料（10対1、13対1、15対1）、精神料療養病棟入院料を算定している患者より、入院期間が１年未満の患者を1名、入院期間が１年以上3年未満の患者を1名、入院期間が3年以上の患者を1名、計3名、合計6名を任意で選定し医療施設に回答を求めた。

調査の概要③

3　調査方法

- 本調査は、自記式アンケート調査方式により実施した。紙の調査票への記入の上郵送返送する方法と、回答者の負担軽減のため、電子調査票を専用ホームページからダウンロードして、入力の上、メールにより提出する方法も選択可能とした。
- 病棟票の配布は、調査対象施設を通じて行い、調査対象病棟の責任者に回答を求めた。
- 入院患者票については、調査対象患者の入院している病棟の責任者に回答を求めた。
- 病院票、病棟票および入院患者票は、調査対象施設でとりまとめの上、提出する方法とした。
- 調査実施時期は、令和2年12月。

4　回収の状況

病院票の発送数は、1,000件であり、回収数は412件（回収率41.2%）であった。
病棟票、入院患者票の回収数は、それぞれ846件、1,604件であった。

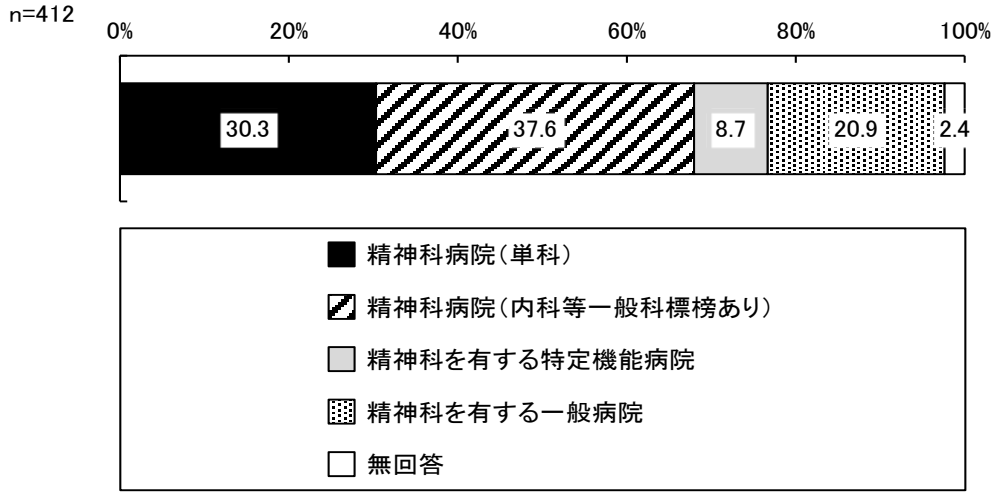
	発送数	有効回収数	有効回収率
病院票	1,000件	412件	41.2%
病棟票	―	846件	―
入院患者票	―	1,604件	―

施設調査（病院票）の結果①

＜施設の概要＞（報告書p3,5）

回答病院の病院種別をみると、「精神科病院（単科）」が30.3%、「精神科病院（内科等一般科標榜あり）」37.6%、「精神科を有する特定機能病院」8.7%、「精神科を有する一般病院」20.9%であった。

図表2-4　病院種別



回答病院の入院基本料等の届出状況（病棟数）は、右表のとおりであった。

図表2-8　届出を行っている入院基本料（複数回答）

	入院基本料等の届出状況			
		平均値	標準偏差	中央値
全体	n=1,562	51.7	17.1	52.0
精神病棟入院基本料	n=589	53.4	21.6	53.0
特定機能病院入院基本料（精神病棟）	n=35	42.5	9.7	41.0
精神科救急入院料	n=130	50.1	17.1	48.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=157	48.2	9.4	50.0
精神科救急・合併症入院料	n=16	47.5	14.6	52.5
児童・思春期精神科入院医療管理料	n=20	24.9	10.9	24.0
精神療養病棟入院料	n=396	55.6	8.1	59.0
認知症治療病棟入院料	n=132	52.8	6.3	52.0
地域移行機能強化病棟入院料	n=19	57.0	5.5	60.0

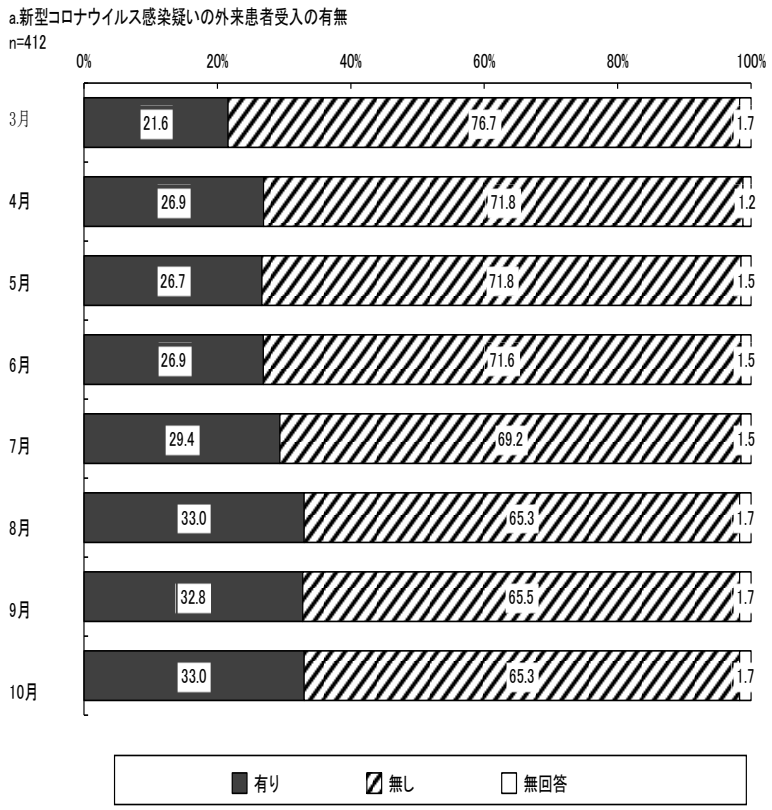
施設調査（病院票）の結果②

＜令和２年３月以降の受診者や体制の動向等（新型コロナウイルス感染疑いの外来・入院患者受入の有無）＞（報告書p19,20）

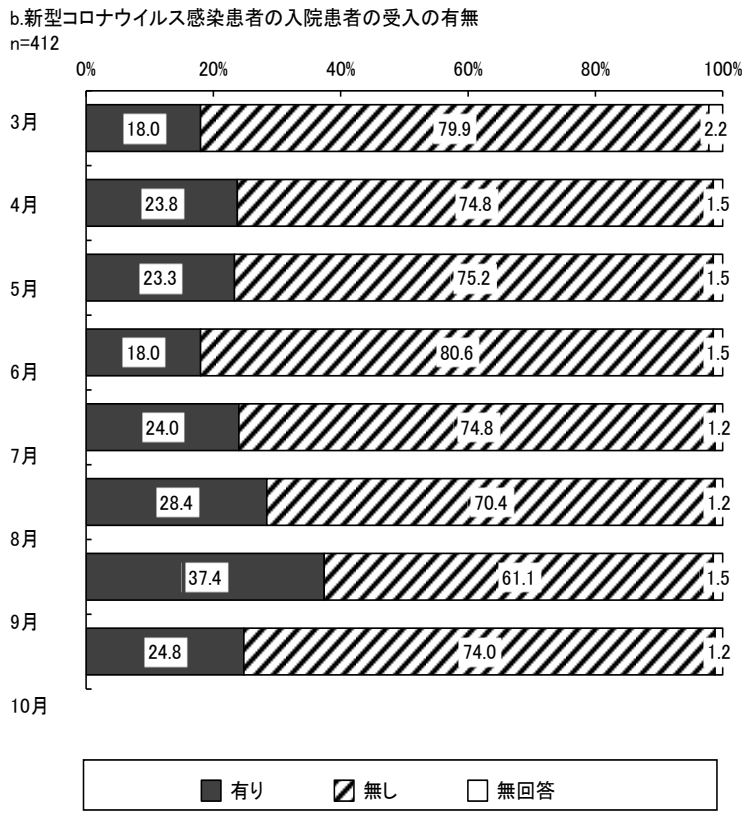
令和２年３月から10月の新型コロナウイルス感染疑いの外来患者（新型コロナウイルス感染症の検査対象となった患者を指す。結果的に新型コロナ感染者と診断されなかった患者も含む。）及び入院患者（新型コロナウイルス感染症の疑似症と診断された患者を含む。）の受入の有無は、以下のとおりであった。

図表2 － 24　受診者や体制の動向（全体）

【外来患者受入の有無】



【入院患者受入の有無】

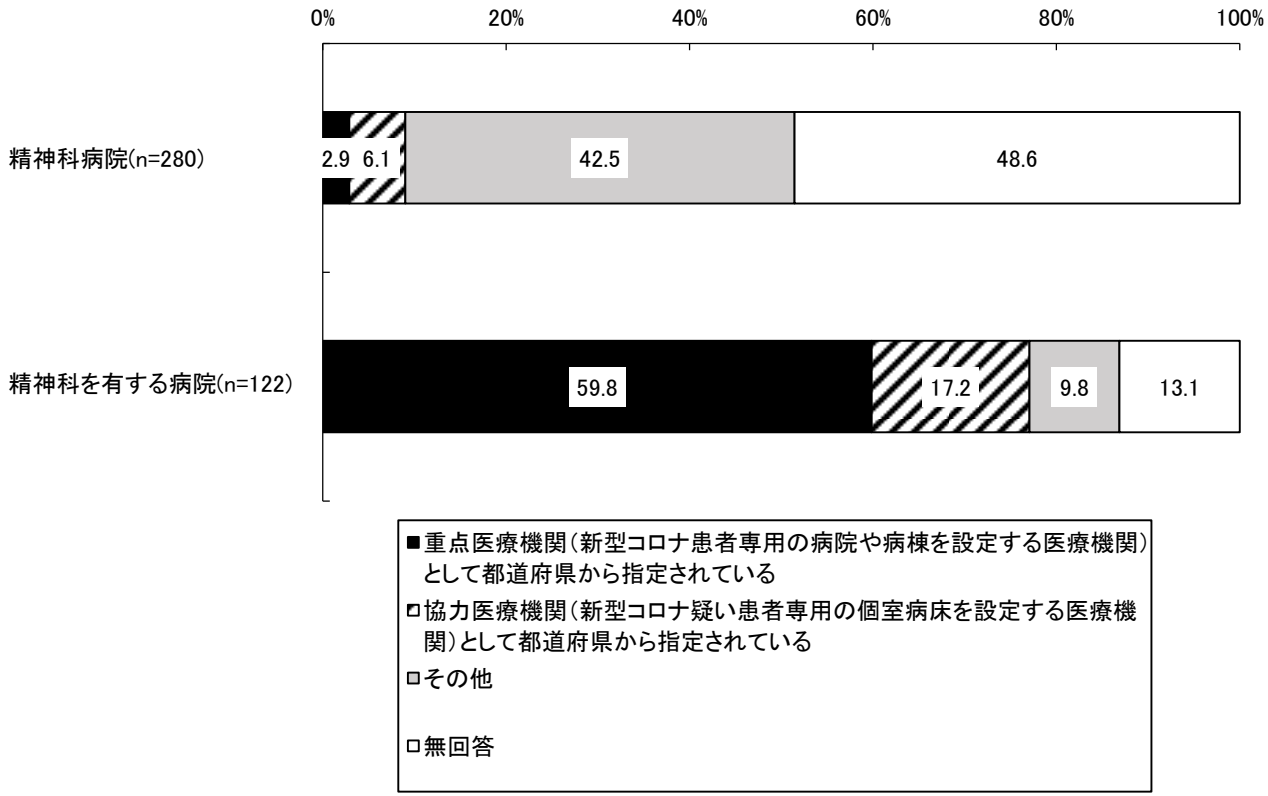


施設調査（病院票）の結果③

＜新型コロナウイルス感染症の重点医療機関等の指定の有無（令和2年11月1日時点）＞（報告書p42）

令和2年11月1日時点の新型コロナウイルス感染の重点医療機関等の指定の有無について、該当状況は次のとおりであった。

図表2－28　重点医療機関等の指定の有無（病院種別）

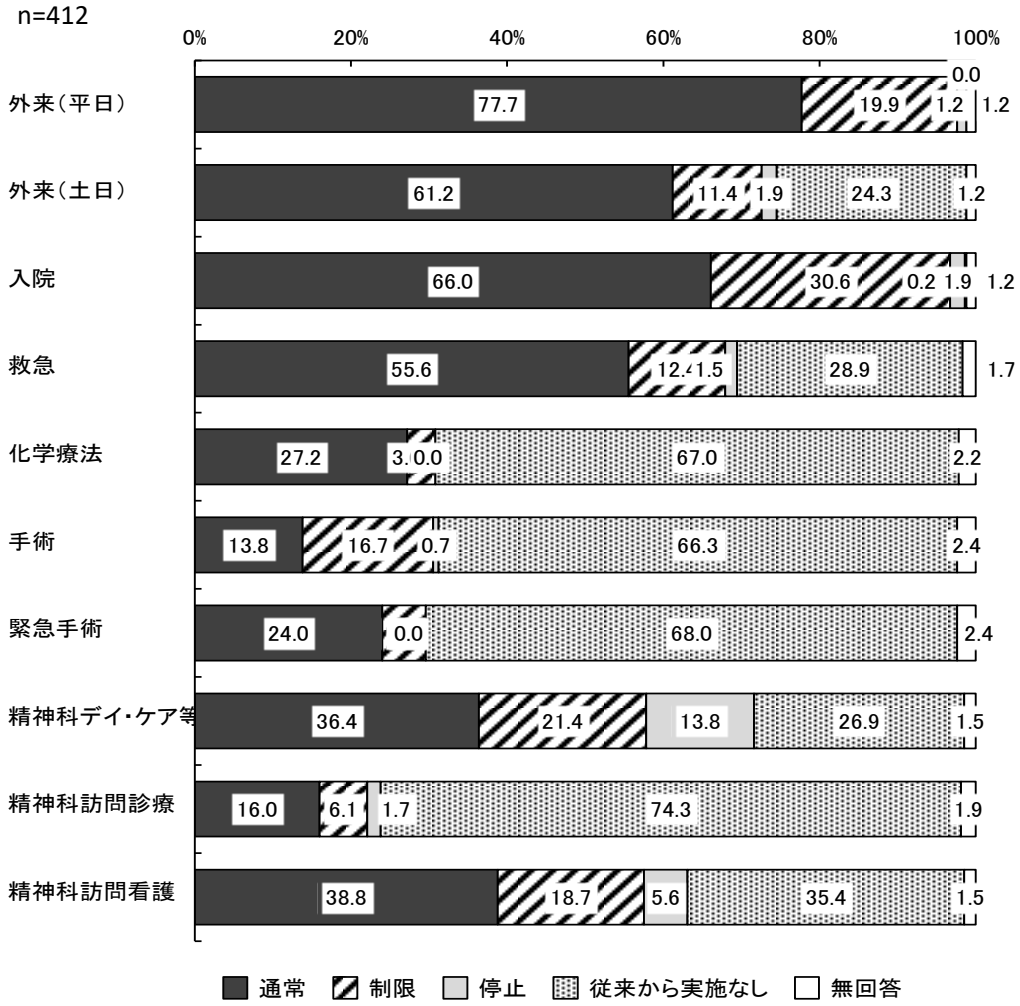


施設調査（病院票）の結果④

＜令和2年4月から11月までの間の医療提供状況の変化＞（報告書p46）

令和２年４月から11月１日までの間に一度でも医療提供状況に変化があったかどうかを尋ねたところ、結果は次のとおりであった。

図表2－30　医療提供状況への変化の影響（全体）

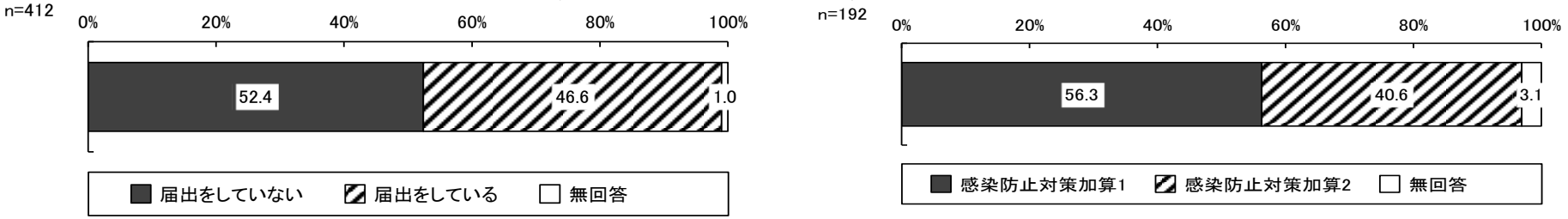


施設調査（病院票）の結果⑤

＜感染防止対策加算＞（報告書p14～16）

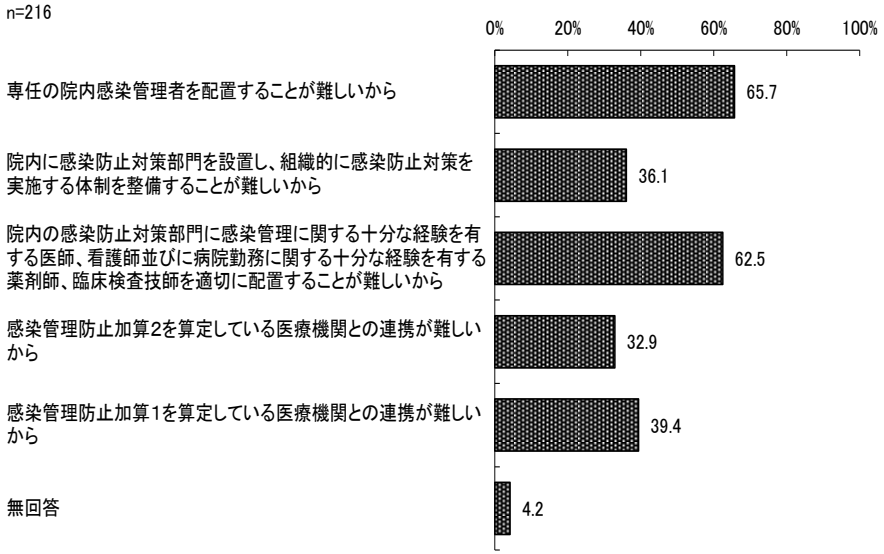
回答病院のうち、感染防止対策加算の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の46.6%、そのうち「感染防止対策加算1」を届け出ている施設が56.3%、「感染防止対策加算2」を届け出ている施設が40.6%であった。

図表2-18　感染防止対策加算の施設基準の届出状況

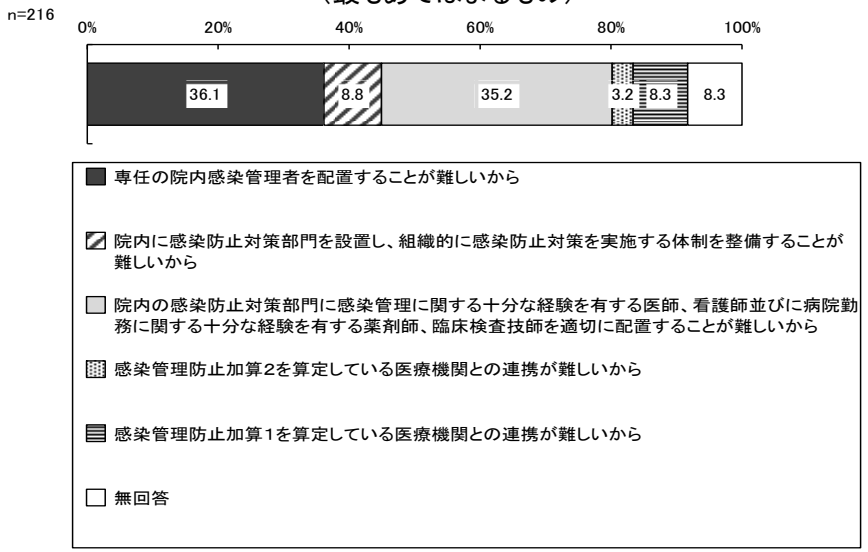


感染防止対策加算の届出をしていない理由（複数回答）を尋ねたところ、最も多かったものは「専任の院内感染管理者を配置することが難しいから」（65.7%）であった。

図表2-20　感染防止対策加算の届出をしていない理由
（複数回答）



図表2-21　感染防止対策加算の届出をしていない理由
（最もあてはまるもの）

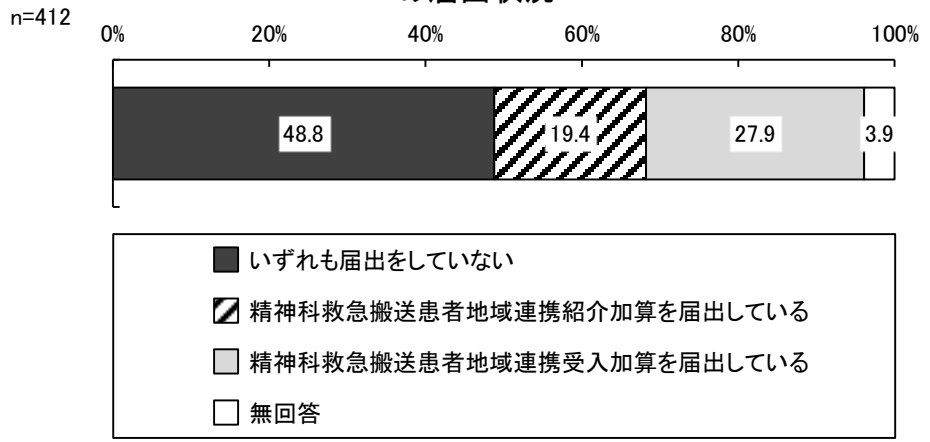


施設調査（病院票）の結果⑥

＜精神科救急搬送患者地域連携紹介加算・受入加算＞（報告書p13）

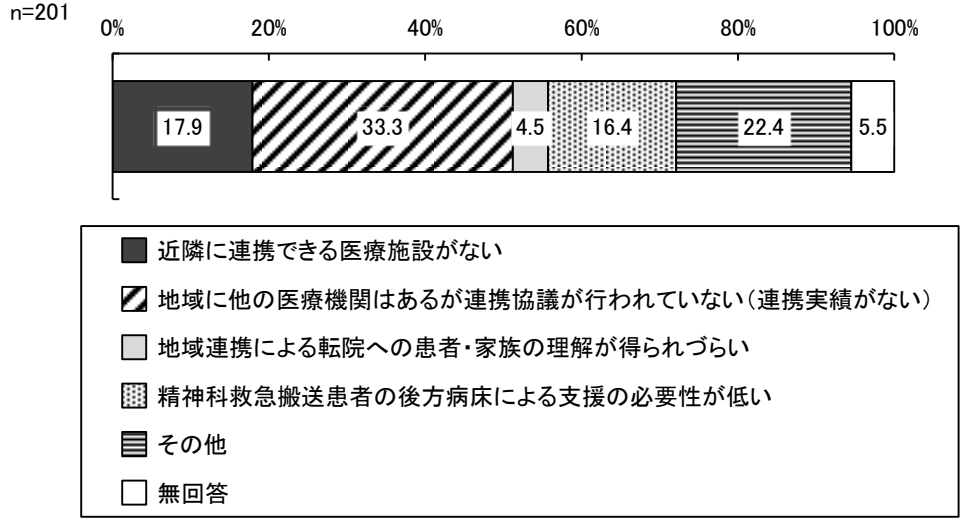
回答病院の精神科救急搬送患者地域連携紹介加算・受入加算の届出状況については「いずれも届出をしていない」が最も多かった(48.8%)。

図表2-16　精神科救急搬送患者地域連携紹介加算・受入加算の届出状況



精神科救急搬送患者地域連携紹介加算・受入加算の届出をしていない理由を尋ねたところ、最も多かったものは「地域に他の医療機関はあるが連携協議が行われていない（33.3%）」であった。

図表2-17　精神科救急搬送患者地域連携紹介加算・受入加算の届出をしていない理由



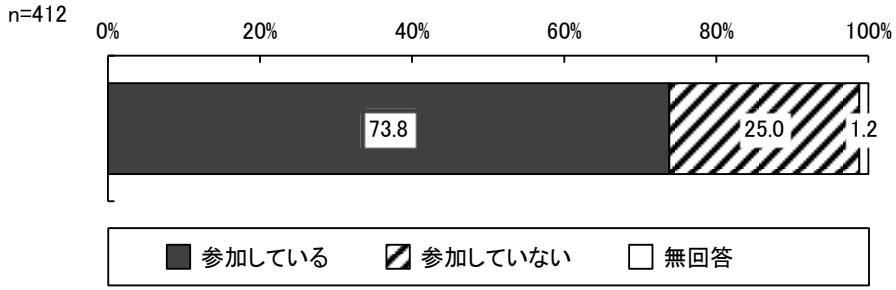
自由回答（その他の理由）
・要件を満たさないため。
・届出の変更は考えていないため。

施設調査（病院票）の結果⑦

＜救急医療の提供状況＞（報告書p62）

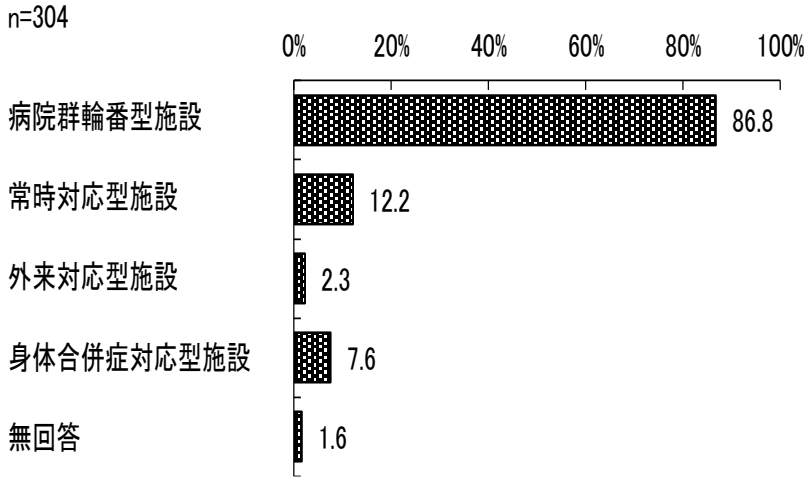
回答病院で精神科救急医療体制整備事業に参加していると回答した施設は全体の73.8%であった。（令和2年10月30日時点）

図表2-39　精神科救急医療体制整備事業の参加の有無



参加している精神科救急医療体制の種別で最も多いものが「病院群輪番型施設」で86.8%であった。

図表2-41　参加している精神科救急医療体制の種別
（複数回答）

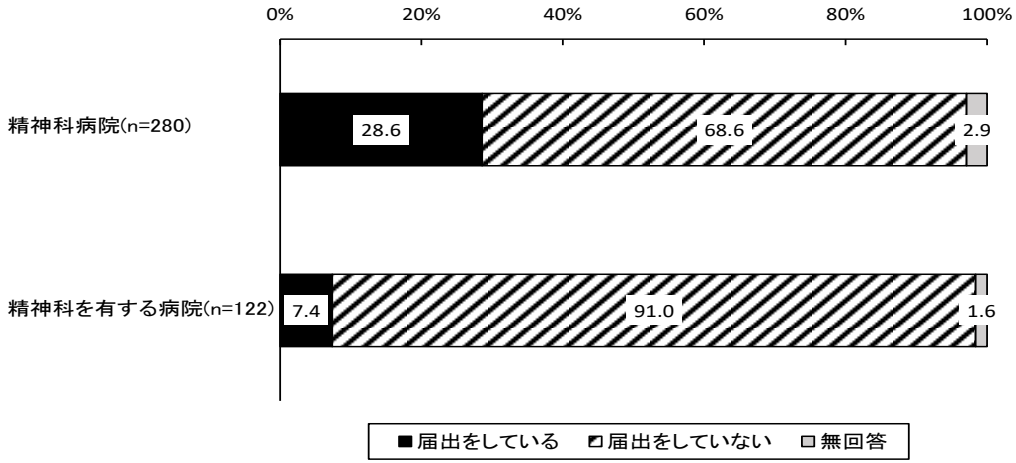


施設調査（病院票）の結果⑧

＜精神科救急入院料＞（報告書p65,70）

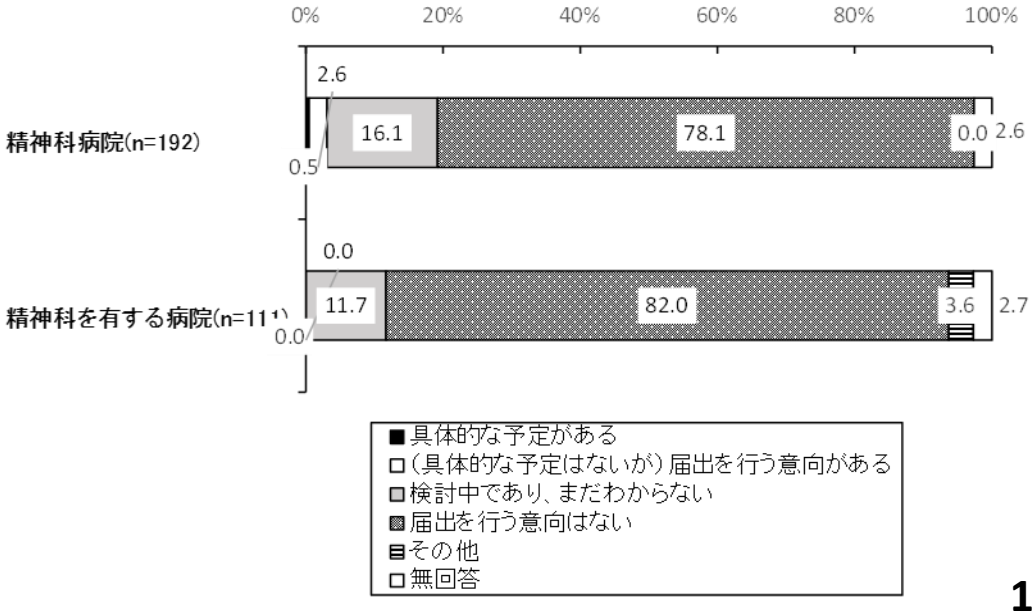
回答病院の精神科救急入院料の届出状況をみると、「届出をしている」が精神科病院では28.6%、精神科を有する病院では7.4%であった。

図表2-46　精神科救急入院料の届出の有無（病院種別）



精神科救急入院料の届出意向をみると、精神科病院では、「届出を行う意向はない」78.1%、「検討中であり、まだわからない」が16.1%であった。精神科を有する病院では、それぞれ82.0%、11.7%であった。

図表2-55　精神科救急入院料の届出意向（病院種別）

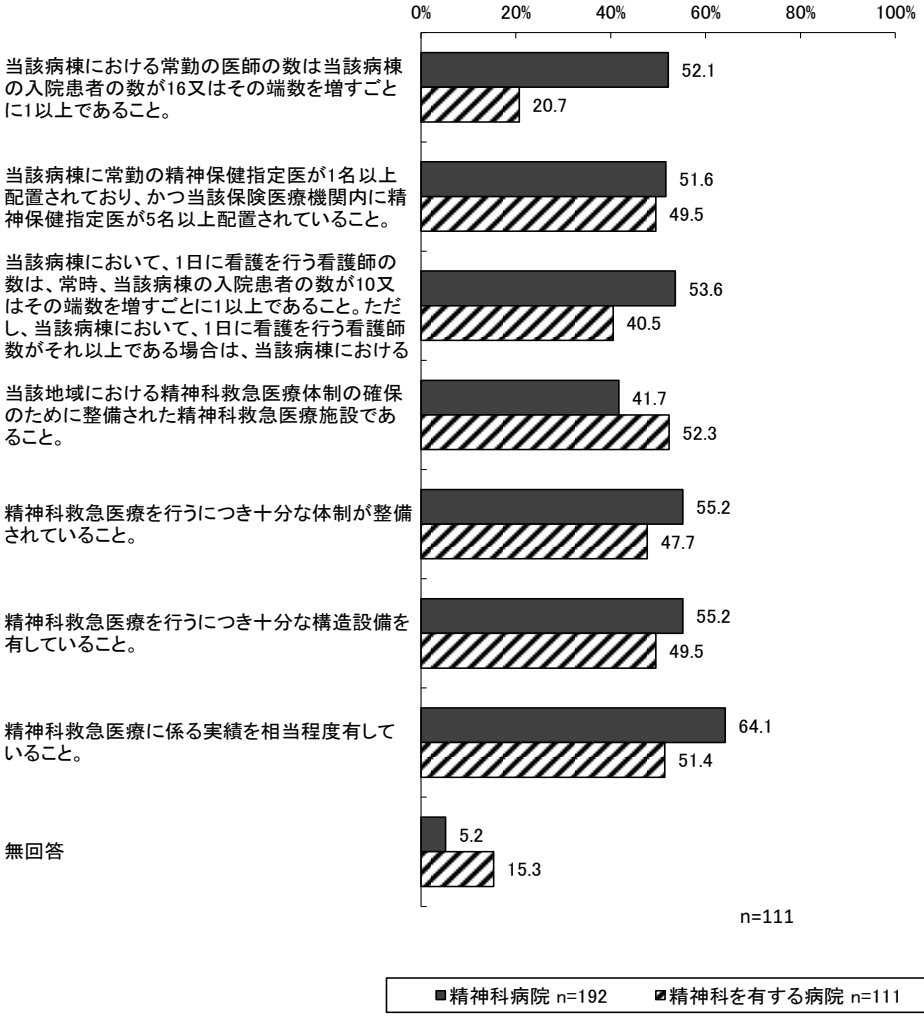


施設調査（病院票）の結果⑨

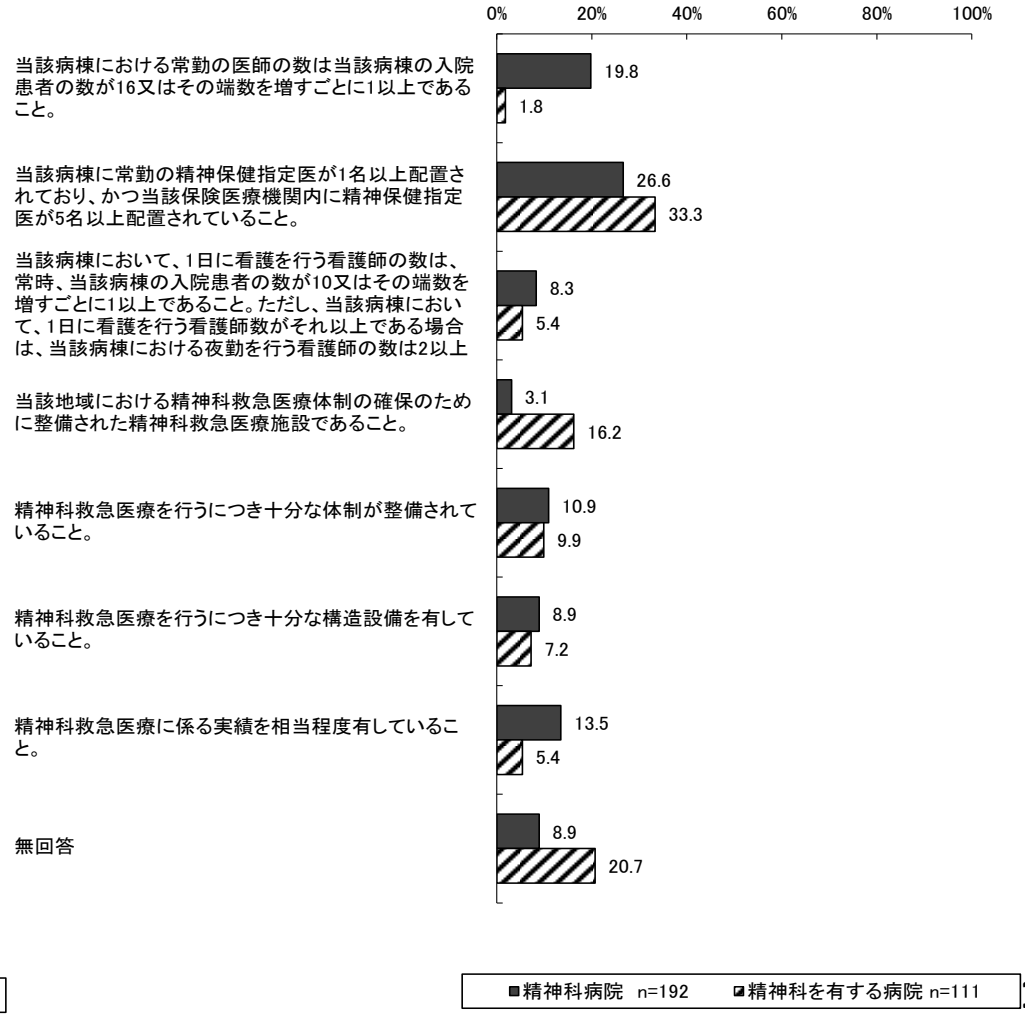
＜精神科救急入院料＞（報告書p71,72）

精神科救急入院料の要件のうち満たすことが難しいもの（複数回答）及び満たすことが最も難しいものについてみると、以下のとおりであった。

図表2-56 精神科救急入院料の要件のうち満たすことが難しいもの（病院種別）



図表2-57 精神科救急入院料の要件のうち満たすことが最も難しいもの（病院種別）

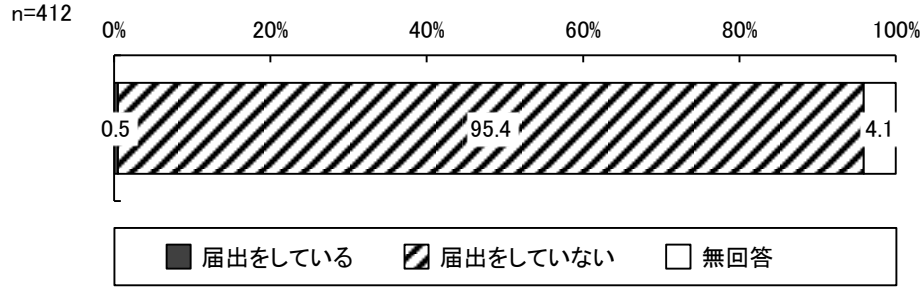


施設調査（病院票）の結果⑩

＜精神科救急・合併症入院料＞（報告書p73,75）

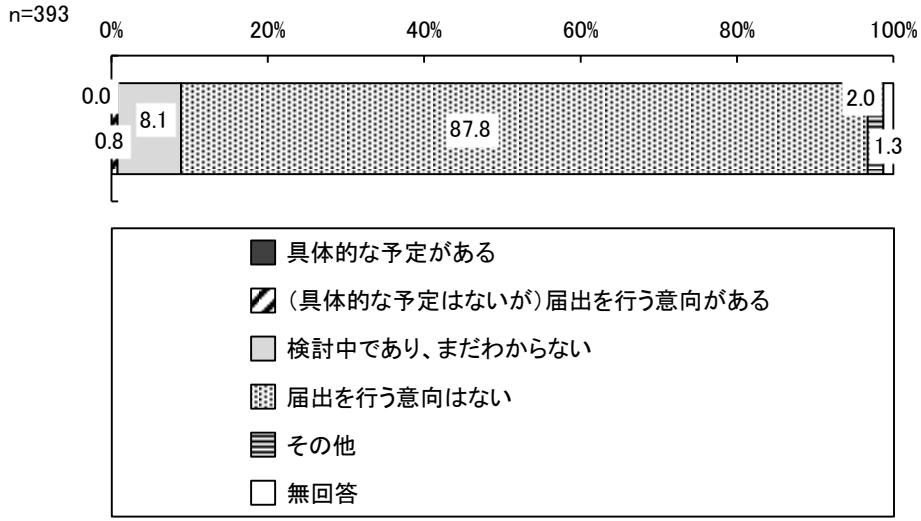
回答病院のうち、精神科救急・合併症入院料の施設基準の届出状況をみると、「届出をしていない」が95.4%であった。

図表2-58　精神科救急・合併症入院料の届出の有無



回答病院のうち、精神科救急・合併症入院料の届出意向については、「届出を行う意向はない」と回答した施設が87.8%であった。

図表2-64　精神科救急・合併症入院料の届出の意向

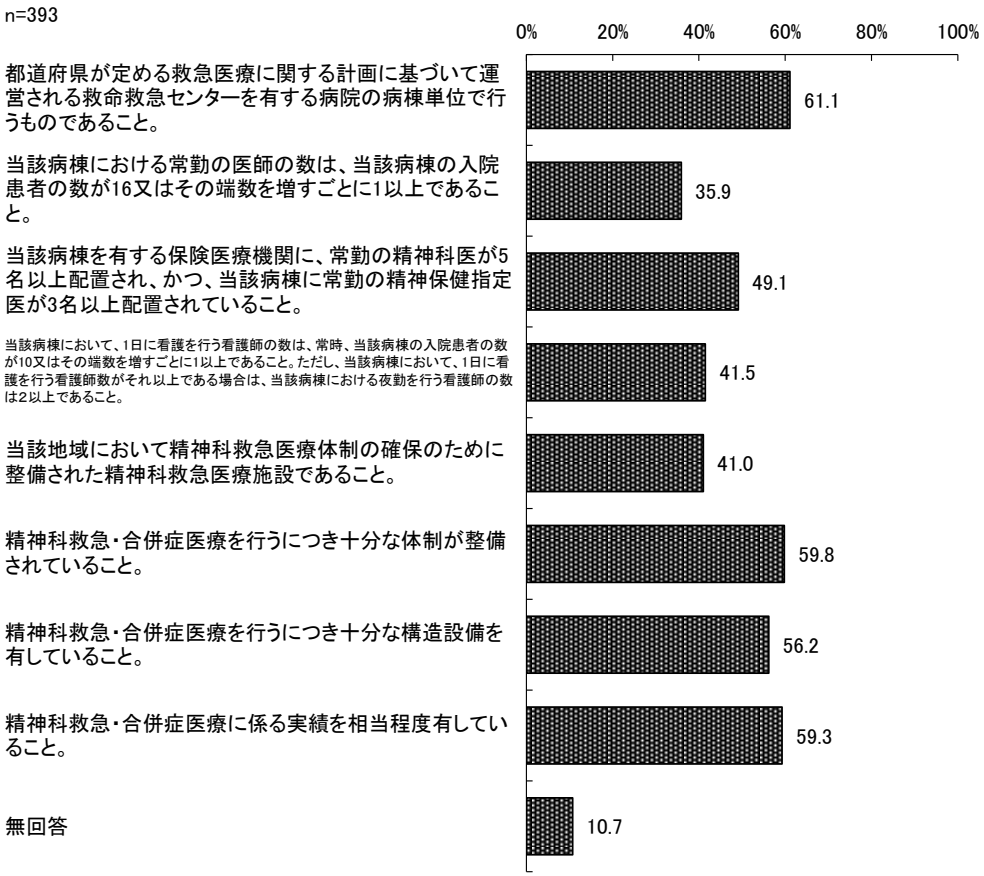


施設調査（病院票）の結果⑪

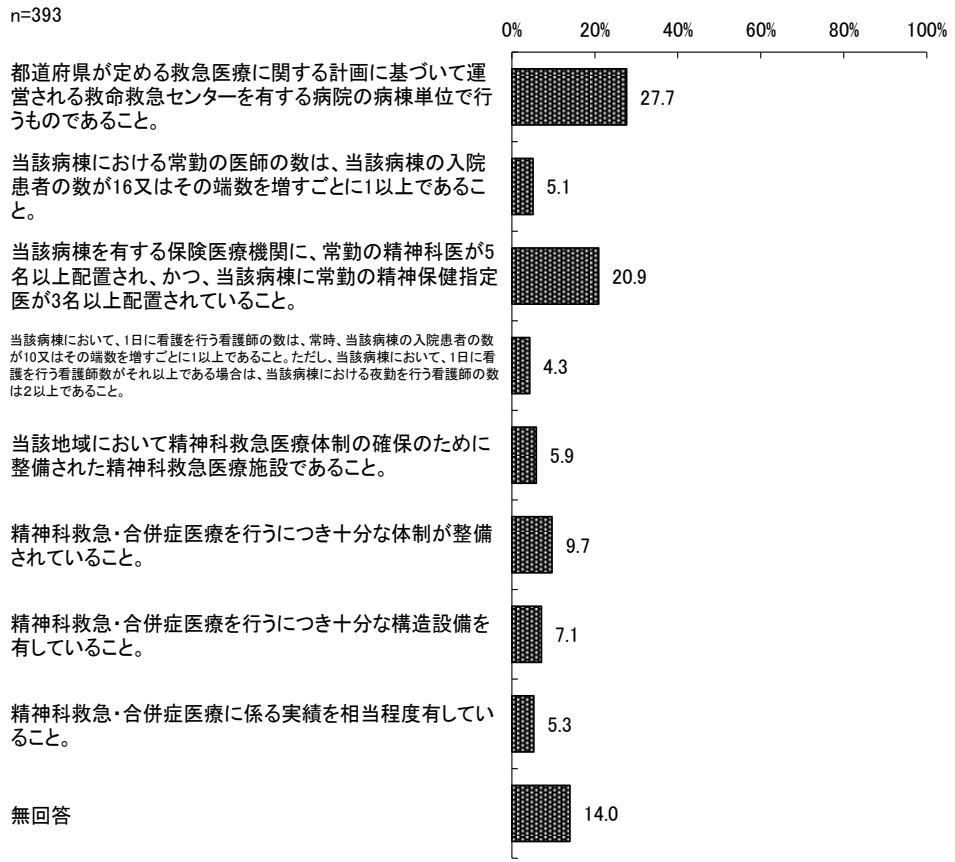
＜精神科救急・合併症入院料＞（報告書p76,77）

精神科救急・合併症入院料の要件のうち満たすことが難しいもの（複数回答）及び満たすことが最も難しいものについてみると、以下のとおりであった。

図表2-65　精神科救急・合併症入院料の要件として満たすことが難しいもの（複数回答）



図表2-66　精神科救急・合併症入院料の届出の要件として満たすことが最も難しいもの

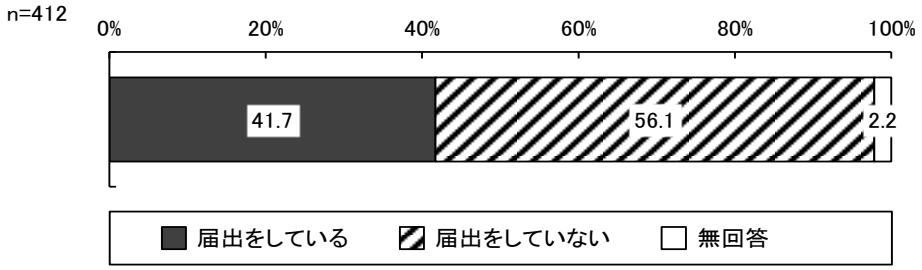


施設調査（病院票）の結果⑫

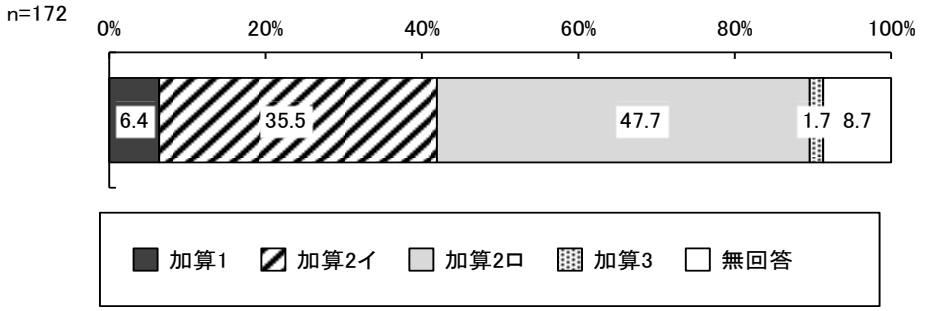
＜精神科急性期医師配置加算＞（報告書p78,79,81）

回答病院のうち、精神科急性期医師配置加算の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の41.7%、そのうち「急性期医師配置加算1」を届け出ている施設が6.4%、「急性期医師配置加算2イ」を届け出ている施設が35.5%、「急性期医師配置加算2ロ」を届け出ている施設が47.7%、「急性期医師配置加算3」を届け出ている施設が1.7%、であった。

図表2-67 精神科急性期医師配置加算の届出の有無

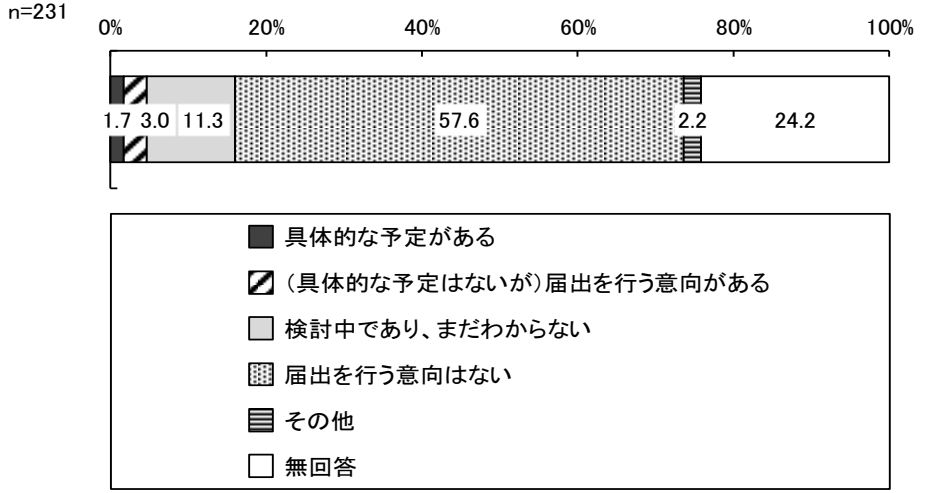


図表2-69 精神科急性期医師配置加算の届出の種別



精神科急性期医師配置加算の届出意向をみると、「具体的な予定がある」1.7%、「（具体的な予定はないが）届出を行う意向がある」3.0%、「検討中であり、まだわからない」11.3%であった。一方、「届出を行う意向はない」が57.6%であった。

図表2-72 精神科急性期医師配置加算の届出意向

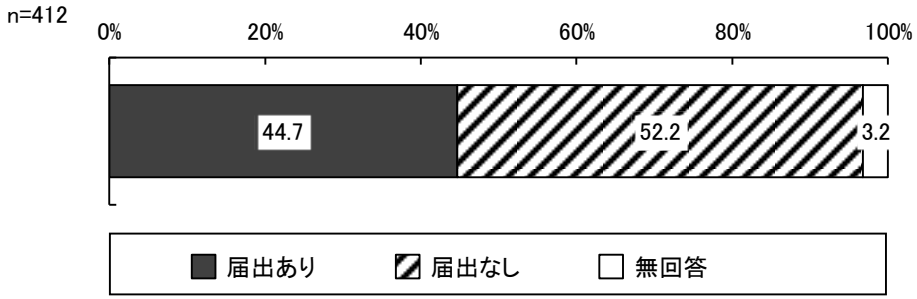


施設調査（病院票）の結果⑬

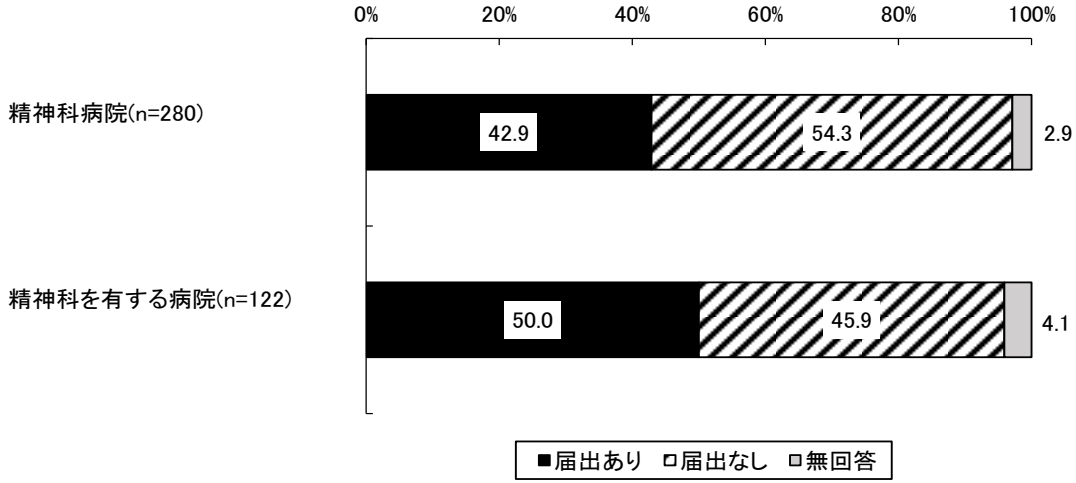
＜治療抵抗性統合失調症治療指導管理料＞（報告書p82）

回答病院のうち、治療抵抗性統合失調症治療指導管理料の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の44.7%であった。

図表2-73 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料の施設基準の届出の有無



図表2-74 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料の施設基準の届出の有無（病院種別）



令和元年6月の治療抵抗性統合失調症治療指導管理料の診療実績は以下のとおりであった。

図表2-75 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料の診療実績

	令和元年6月1か月間における診療実績			
		平均値	標準偏差	中央値
実患者数	n=176	13.4	27.0	5.0
算定件数	n=172	20.0	64.3	5.0

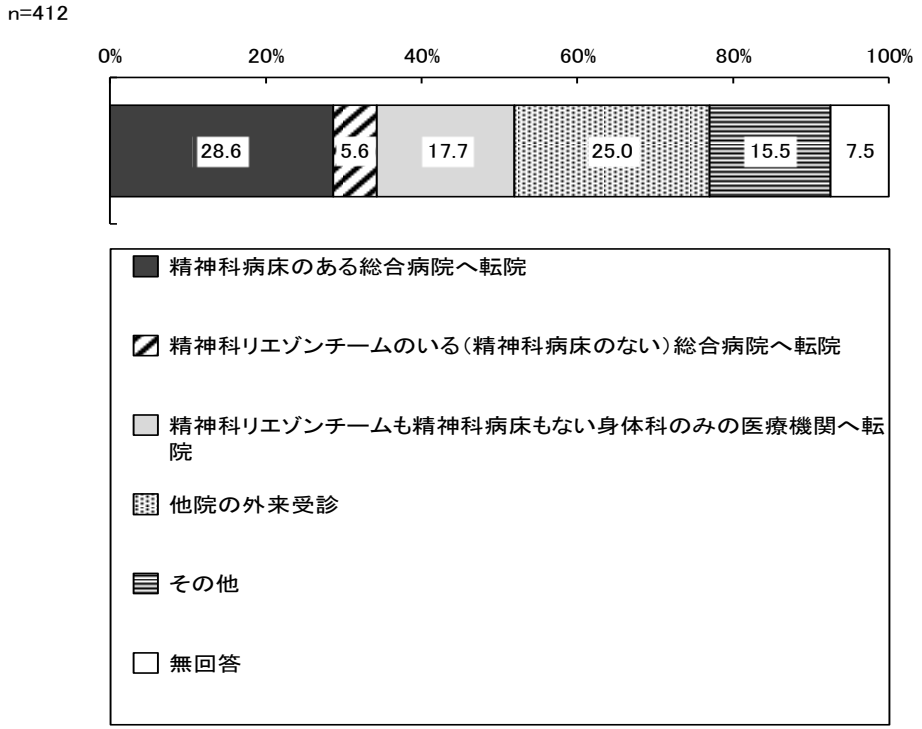
施設調査（病院票）の結果⑭

＜身体合併症への対応状況＞（報告書p85）

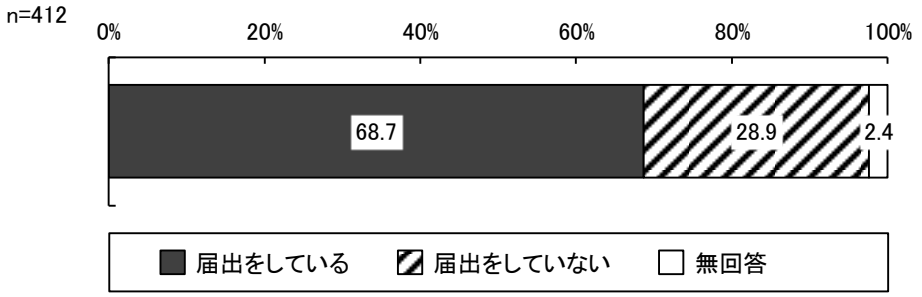
対応困難な身体合併症に対する対応として最も多かった回答は「精神科病床のある総合病院へ転院」（28.6%）であった。

回答病院のうち、精神科身体合併症管理加算の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の68.7%であった。

図表2-80　対応困難な身体合併症に対する対応



図表2-81　精神科身体合併症管理加算の届出の有無

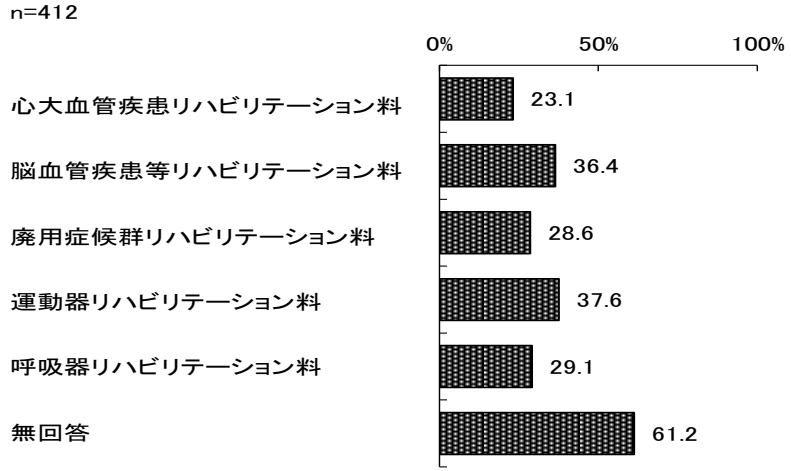


施設調査（病院票）の結果⑮

＜身体合併症への対応状況＞（報告書p87,88）

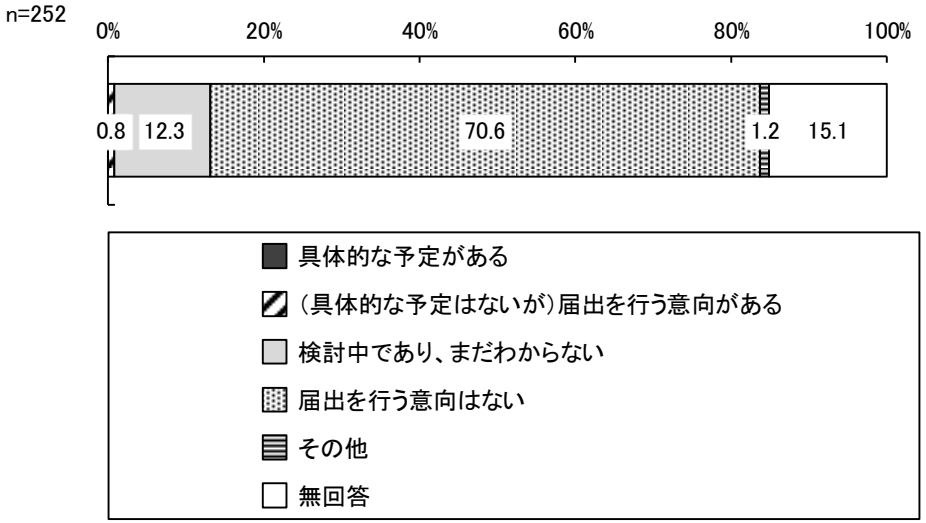
回答病院の疾患別リハビリテーションの届出状況は、右図のとおりであった。

図表2-86　疾患別リハビリテーションの施設基準の届出状況（複数回答）



疾患別リハビリテーションの「届出をしていない」と回答した施設における届出意向をみると、「届出を行う意向はない」が70.6%であった。

図表2-87　疾患別リハビリテーションの施設基準の届出意向

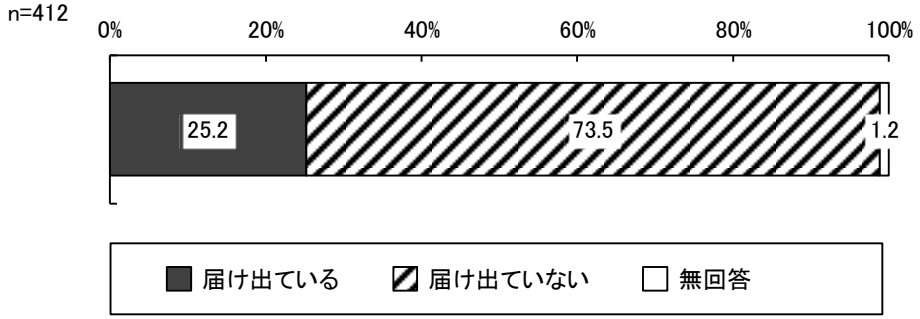


施設調査（病院票）の結果⑯

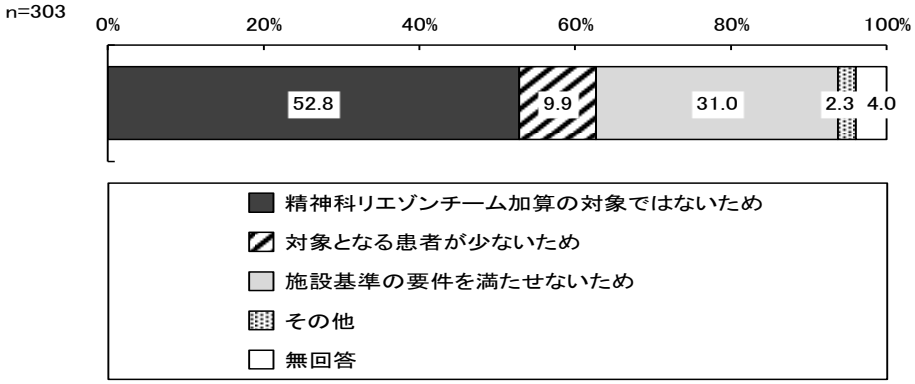
＜精神科リエゾンチームの状況＞（報告書p89,90,92）

回答病院のうち、精神科リエゾンチーム加算の施設基準の「届け出ている」施設は、全体の25.2%であった。また、届出をしていない理由をみると、「精神科リエゾンチーム加算の対象ではないため」が52.8%で最も多く、次いで「施設基準の要件を満たせないため」が31.0%であった。

図表2-88 精神科リエゾンチーム加算の届出の有無



図表2-95 精神科リエゾンチーム加算の届出を行っていない理由



精神科リエゾンチーム加算を算定した患者数は右図のとおりであった。

図表2-90 精神科リエゾンチーム加算を算定した患者数（実人数）

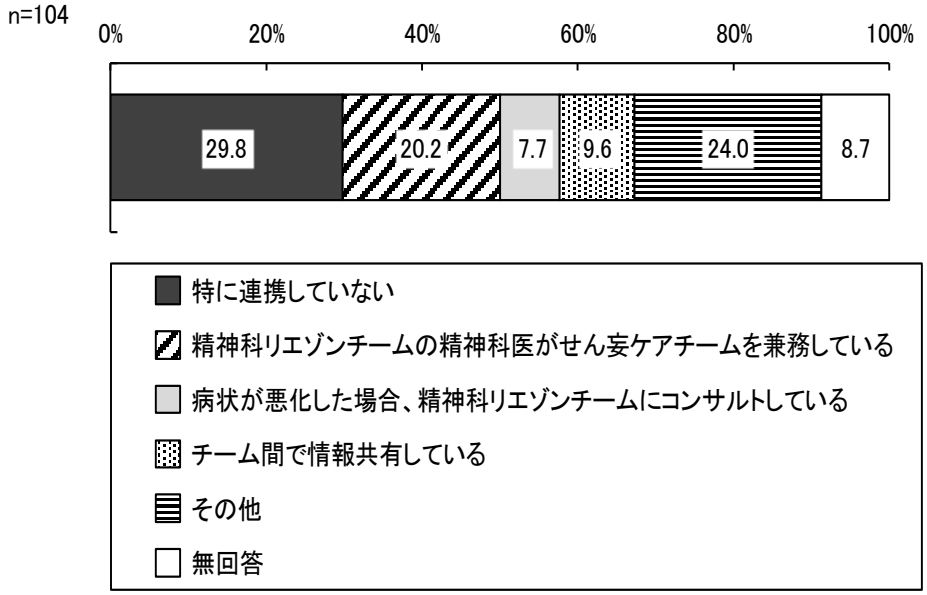
			平均値	標準偏差	中央値
1）総数		n=97	26.62	27.97	20.00
a.（うち）新型コロナウイルス感染症の患者数		n=92	1.07	3.61	0.00
2）対象疾患別患者数	a. 症状性を含む器質性精神障害(F0)	n=80	5.38	11.99	1.50
	b. 精神作用物質使用による精神及び行動の障害(F1)	n=77	1.21	1.79	0.00
	c. 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(F2)	n=80	2.36	3.20	1.00
	d. 気分[感情]障害(F3)	n=81	2.79	2.81	2.00
	e. 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	n=82	3.24	5.95	1.00
	f. 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(F5)	n=74	2.53	4.17	0.00
	g. 成人の人格及び行動の障害(F6)	n=70	0.07	0.31	0.00
	h. 知的障害＜精神遅滞＞(F7)	n=75	0.65	1.64	0.00
	i. 心理的発達の障害(F8)	n=70	0.17	0.41	0.00
	j. 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害(F9)	n=68	0.15	0.75	0.00
	k. 自殺企図	n=67	0.61	1.56	0.00
	l. せん妄	n=83	13.25	15.70	8.00

施設調査（病院票）の結果⑰

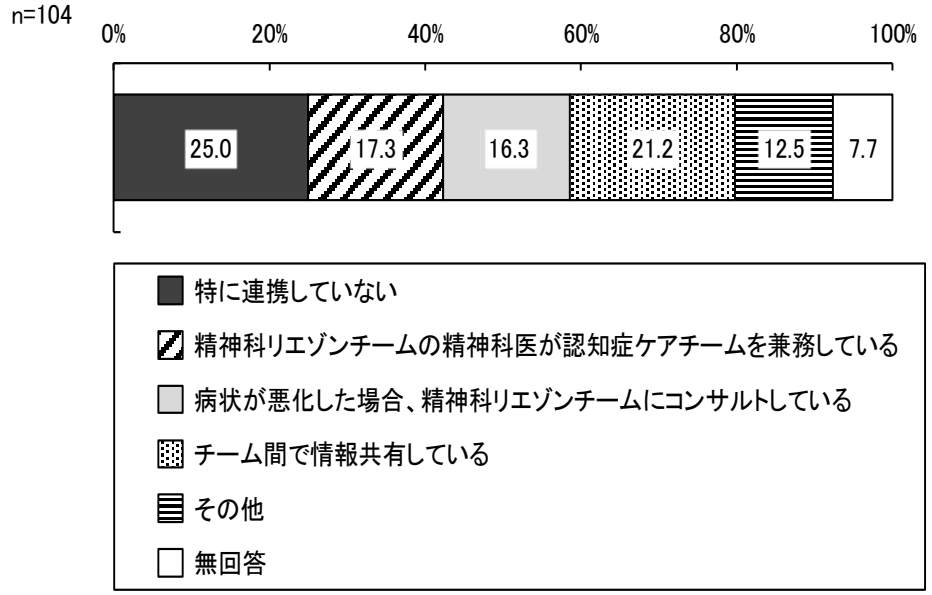
＜精神科リエゾンチームの状況＞（報告書p91,92）

回答病院の、精神科リエゾンチームのせん妄ケアチームとの連携、精神科リエゾンチームの認知症ケアチームとの連携状況は、以下のとおりであった。

図表2-93　精神科リエゾンチームのせん妄ケアチームとの連携状況



図表2-94　精神科リエゾンチームの認知症ケアチームとの連携状況

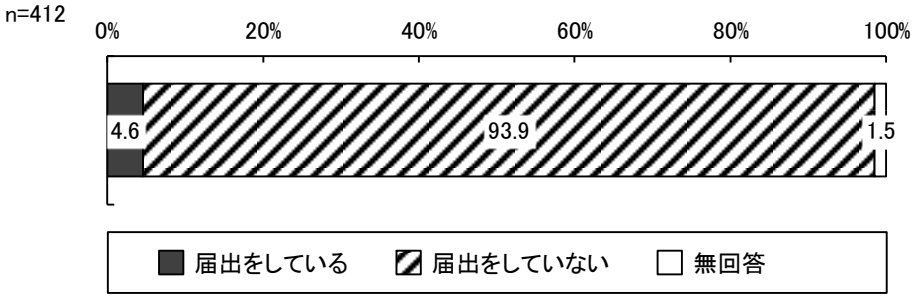


施設調査（病院票）の結果⑱

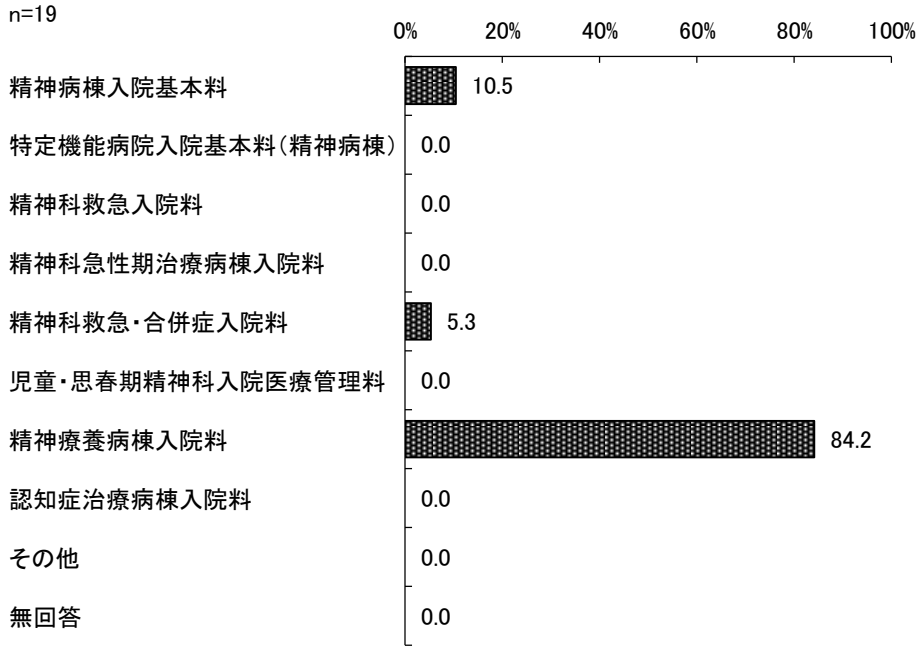
＜地域移行機能強化病棟について＞（報告書p94）

回答病院のうち、地域移行機能強化病棟入院料の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の4.6%であった。また、地域移行機能強化病棟に転換した病床種別は以下のとおりであった。

図表2-97　地域移行機能強化病棟入院料の届出の有無



図表2-99　地域移行機能強化病棟に転換した病床種別（複数回答）

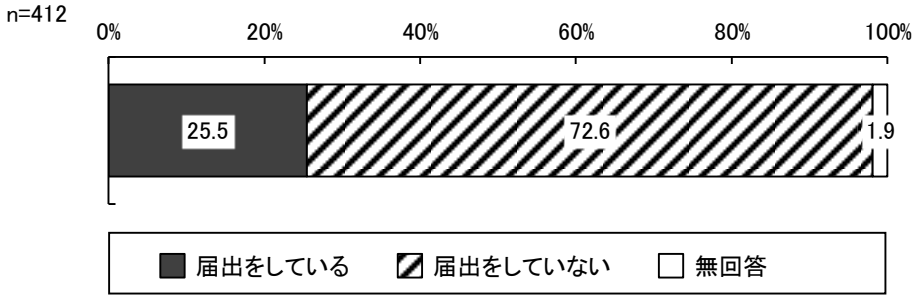


施設調査（病院票）の結果⑲

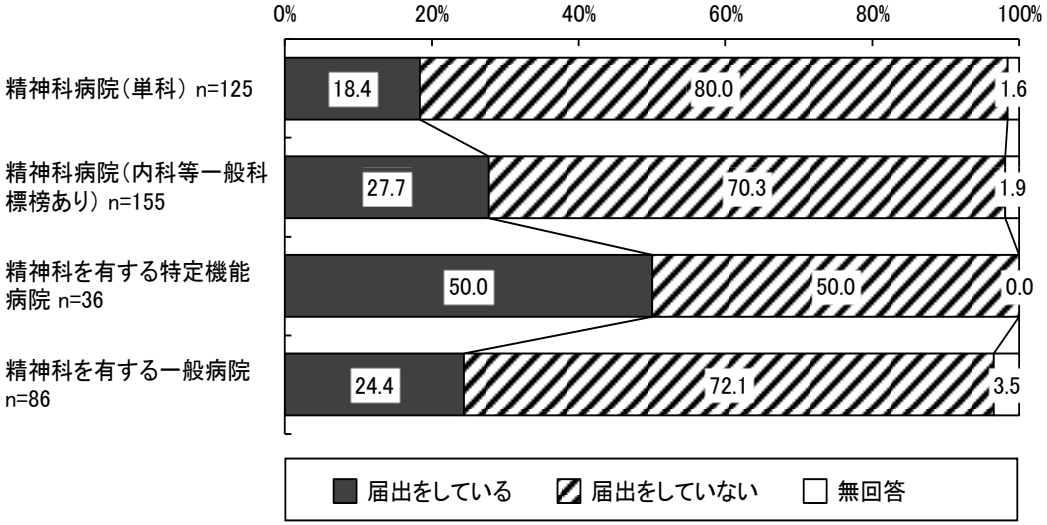
＜精神科退院時共同指導料＞（報告書p102,107）

回答病院のうち、精神科退院時共同指導料の施設基準の「届出をしている」施設は、全体の25.5%であった。「届出をしていない」と回答した施設における届出をしていない理由は、「共同指導を行うことができる医療機関がないため」が47.2%で最も多かった。

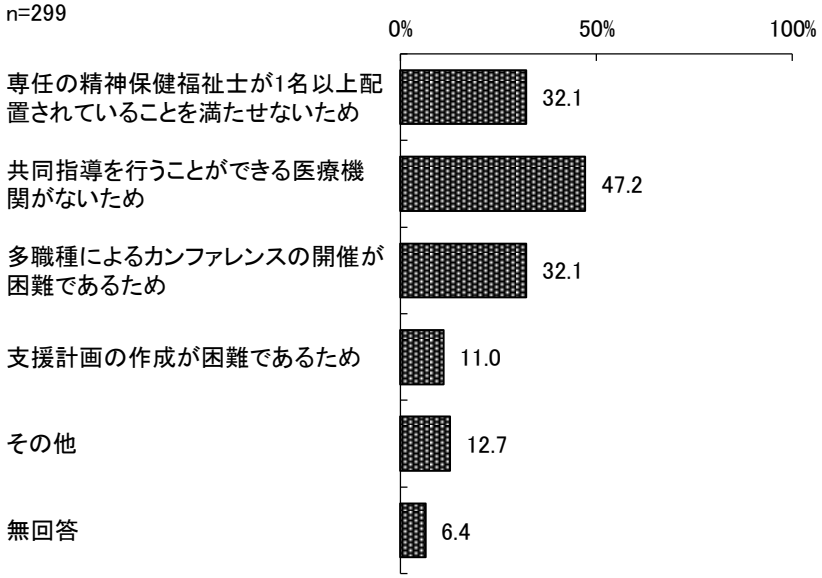
図表2-108 精神科退院時共同指導料の届出の有無



図表2-109 精神科退院時共同指導料の届出の有無（病床種別）



図表2-114 精神科退院時共同指導料の届出を行っていない理由（複数回答）

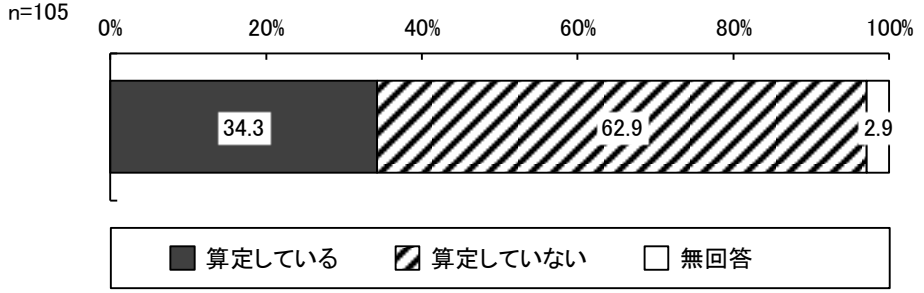


施設調査（病院票）の結果⑳

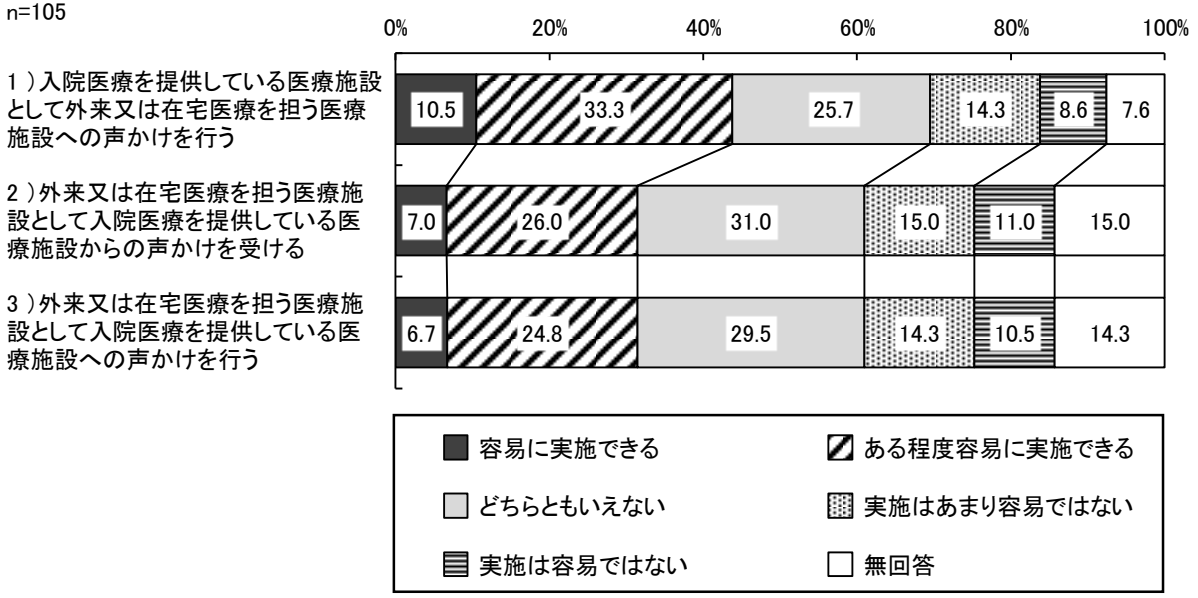
＜精神科退院時共同指導料＞（報告書p103,104）

精神科退院時共同指導料の届出をしている施設で、令和2年8月～10月の精神科退院時共同指導料の算定状況は以下のとおりであった。また、退院時に共同して指導を実施する医療機関との連携活動等の実施状況は以下のとおりであった。

図表2-110　精神科退院時共同指導料の算定状況



図表2-111　退院時の医療機関との連携活動等の実施状況

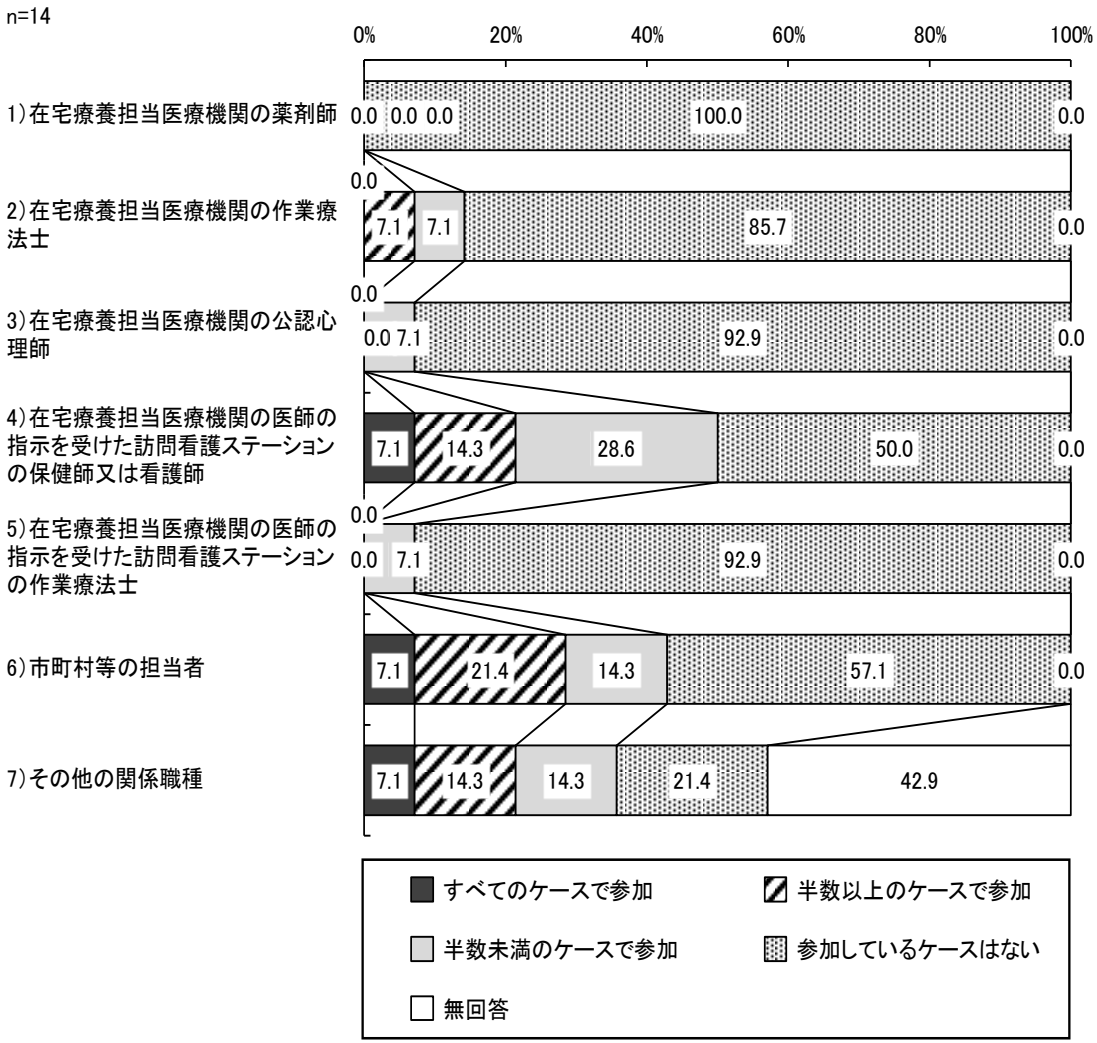


施設調査（病院票）の結果㉑

＜精神科退院時共同指導料（多職種チーム参加状況）＞（報告書p105）

精神科退院時共同指導料の届出をしており、入院医療を提供する施設（精神科退院時共同指導料2を算定している施設）における多職種チームの参加状況は右図のとおりであった。

図表2-112　多職種チーム参加状況（退院時共同指導料2を算定している施設）



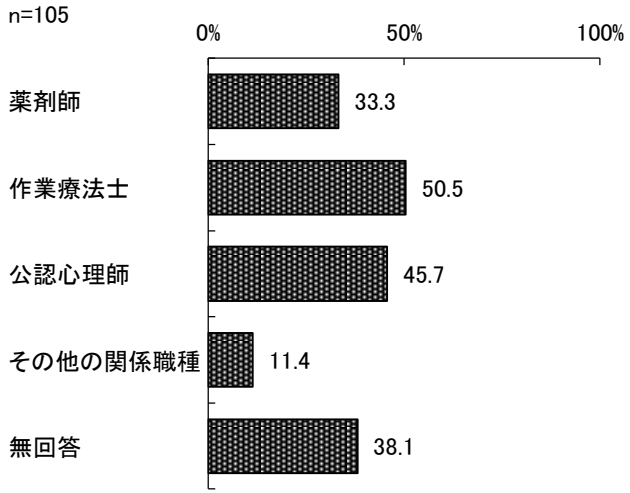
施設調査（病院票）の結果㉒

＜精神科退院時共同指導料（多職種によるカンファレンスに参加している職種）＞（報告書p106）

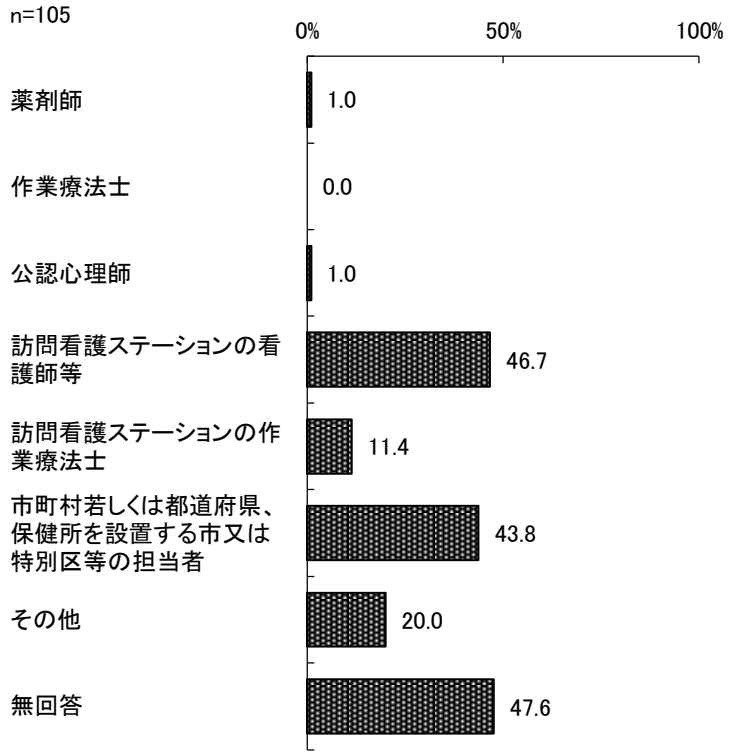
精神科退院時共同指導料の届出をしている施設において、医師、看護師、精神保健福祉士以外でカンファレンスに参加している職種は以下のとおりであった。

図表2-113　医師、看護師、精神保健福祉士以外のカンファレンス参加職種（複数回答）

＜回答施設内＞



＜回答施設以外の施設、組織等＞

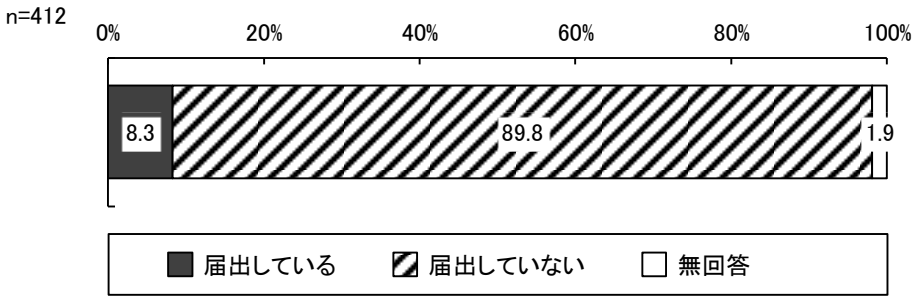


施設調査（病院票）の結果㉓

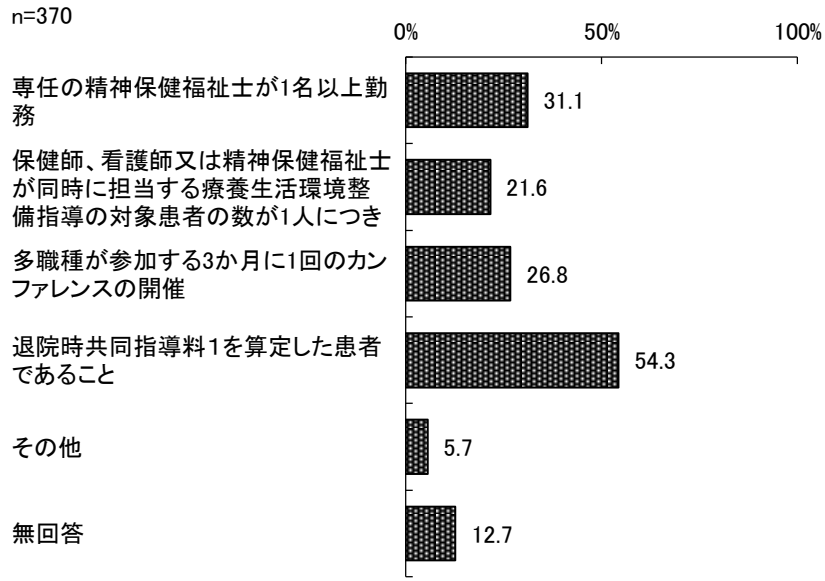
＜外来医療の状況（療養生活環境整備指導加算）＞（報告書p111,112）

回答病院のうち、療養生活環境整備指導加算の施設基準の「届出している」施設は、全体の8.3%であった。届出をしていない理由として、満たすことが難しい要件として最も多かったものは「退院時共同指導料1を算定した患者であること」が54.3%であった。

図表2-120　療養生活環境整備指導加算の届出状況



図表2-121　満たすことが難しい要件（複数回答）

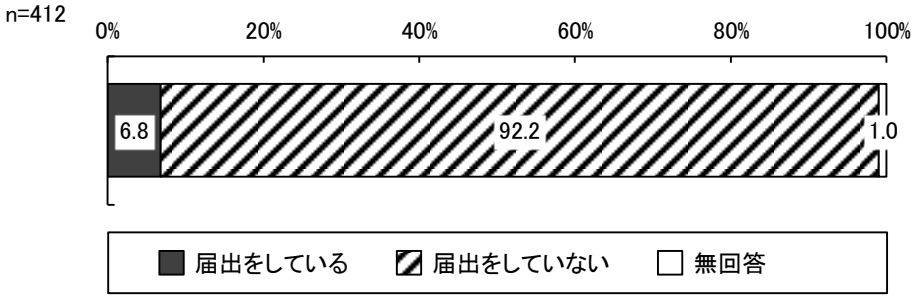


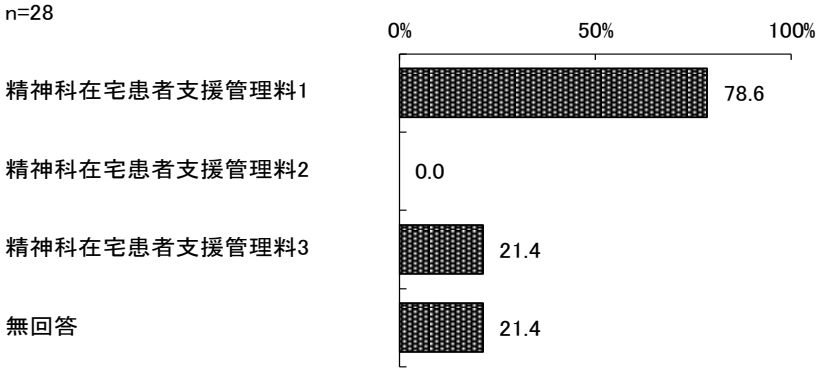
施設調査（病院票）の結果㉔

＜在宅医療の状況（精神科在宅患者支援管理料）①＞（報告書p115,117）

回答病院のうち、精神科在宅患者支援管理料の施設基準の「届出をしていない」施設が、全体の92.2%であった。

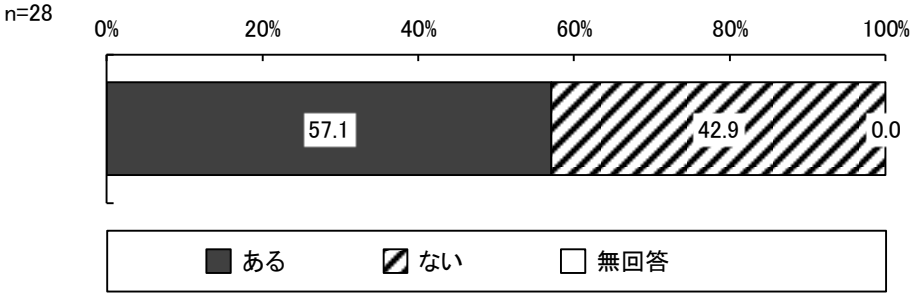
図表2-127 精神科在宅患者支援管理料の施設基準の届出有無および届出の種類（複数回答）

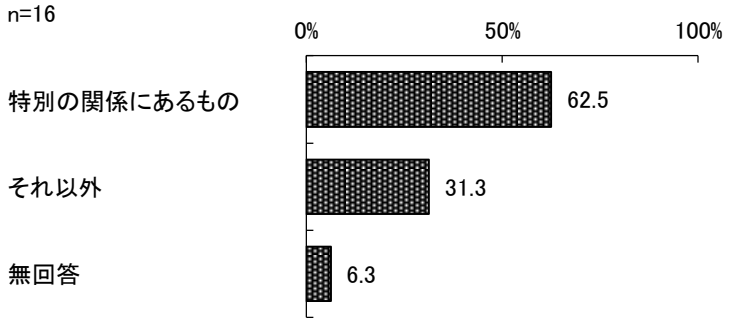




精神科在宅患者支援管理料の施設基準の届出をしていると回答した施設において、連携する訪問看護ステーションがあると回答した施設は57.1%であった。

図表2-129 連携する訪問看護ステーションの有無



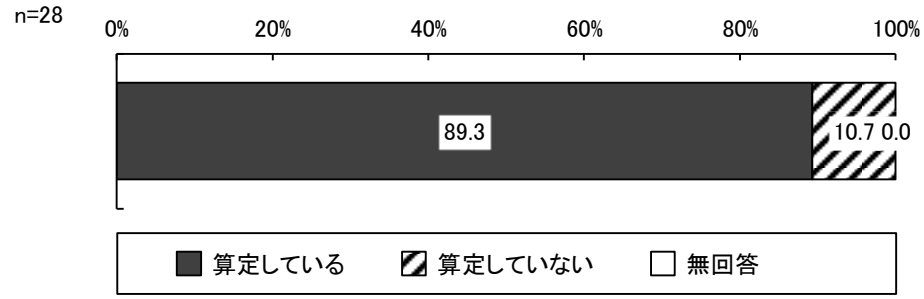


施設調査（病院票）の結果㉕

＜在宅医療の状況（精神科在宅患者支援管理料）②＞（報告書p117,119）

精神科在宅患者支援管理料の施設基準の届出をしていると回答した施設において、令和2年8月～10月の精神科在宅患者支援管理料の算定状況は以下のとおりであった。

図表2-130 精神科在宅患者支援管理料の算定状況



精神科在宅患者支援管理料の施設基準の届出をしており、かつ精神科在宅患者支援管理料の算定をしている施設における令和2年10月の算定件数は右図のとおりであった。

図表2-132 精神科在宅患者支援管理料の算定件数

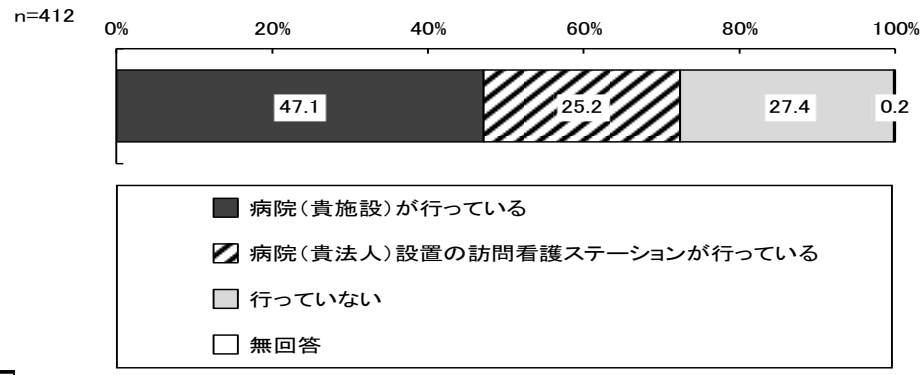
		平均値	標準偏差	中央値
1）精神科在宅患者支援管理料1	n=18	32.1	43.9	13.0
イ．重症患者等のうち、集中的な支援を必要とする患者(1)単一建物診療患者1人	n=9	2.8	7.9	0.0
イ．重症患者等のうち、集中的な支援を必要とする患者(2)単一建物診療患者2人以上	n=9	2.2	6.3	0.0
ロ．重症患者等(1)単一建物診療患者1人	n=8	0.6	1.3	0.0
ロ．重症患者等(2)単一建物診療患者2人以上	n=8	0.0	0.0	0.0
ハ．イ又はロ以外の患者(1)単一建物診療患者1人	n=12	3.8	7.1	1.5
うち2020年3月末時点で算定していた患者の算定件数	n=11	3.7	7.4	0.0
ハ．イ又はロ以外の患者(2)単一建物診療患者2人以上	n=14	33.9	43.6	13.5
うち2020年3月末時点で算定していた患者の算定件数	n=14	25.1	35.6	10.0
2）精神科在宅患者支援管理料2	n=−	−	−	−
イ．重症患者等のうち、集中的な支援を必要とする患者(1)単一建物診療患者1人	n=−	−	−	−
イ．　重症患者等のうち、集中的な支援を必要とする患者(2)単一建物診療患者2人以上	n=−	−	−	−
ロ．重症患者等(1)単一建物診療患者1人	n=−	−	−	−
ロ．重症患者等(2)単一建物診療患者2人以上	n=−	−	−	−
3）精神科在宅患者支援管理料3	n=5	2.2	4.4	0.0
イ．単一建物診療患者1人	n=5	2.2	4.4	0.0
ロ．単一建物診療患者2人以上	n=5	0.0	0.0	0.0

施設調査（病院票）の結果㉖

＜精神科訪問看護の状況＞（報告書p123,124）

回答病院の精神科訪問看護の実施状況は右図のとおりであった。

図表2-138　精神科訪問看護の実施有無



図表2-139　精神科訪問看護に携わる職員数
（病棟看護職員による退院前訪問看護は除く）

	1)保健師・看護師				2)准看護師				3)作業療法士			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
a. 令和元年10月	n=178	4.2	4.3	3.0	n=79	0.7	1.7	0.0	n=93	1.0	1.3	1.0
b. 令和2年10月	n=181	4.0	3.5	3.0	n=79	0.6	1.1	0.0	n=93	1.0	1.3	1.0
	4)精神保健福祉士				5)その他				6)合計			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
a. 令和元年10月	n=137	2.1	2.4	1.0	n=63	0.2	0.5	0.0	n=124	6.8	6.2	5.0
b. 令和2年10月	n=135	2.1	2.4	1.0	n=62	0.1	0.4	0.0	n=127	6.4	4.9	5.0

図表2-140　精神科訪問看護を実施した患者数（実人数）

		平均値	標準偏差	中央値
令和2年10月1か月間の精神科訪問看護を実施した患者数（実人数）	n=186	72.6	64.9	55.0
上記のうち、身体疾患を有する患者数（実人数）	n=141	19.3	38.5	1.0
上記のうち、他の精神科療法を行った患者数（実人数）	n=150	43.6	53.0	27.0

精神科訪問看護を行っている施設における精神科訪問看護に携わる職員数（常勤換算）、精神科訪問看護を行っている施設における令和2年10月1か月間に精神科訪問看護を実施した患者数(実人数）は左図のとおりであった。

施設調査（病院票）の結果㉗

＜複数名精神科訪問看護の状況＞（報告書p125）

精神科訪問看護を実施した患者のうち、複数名精神科訪問看護・指導加算を算定した患者で、算定した患者数が最も多かったのは１日に1回であった。その平均は43人であった。

図表2-143　複数名精神科訪問看護・指導加算を算定した患者数と回数

	1）算定患者数				2）算定回数			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
a. １日に1回	n=174	42.8	62.0	18.5	n=174	98.8	134.8	40.5
b. １日に2回	n=93	0.1	0.4	0.0	n=93	0.3	2.3	0.0
c. １日に3回以上	n=91	1.7	16.3	0.0	n=91	2.5	23.9	0.0

複数名訪問が必要な理由は職種によって異なるが、「利用者及び家族それぞれへの支援が必要」が保健師・看護師、准看護師、精神保健福祉士で最も多く、次いで「暴力行為、迷惑行為等が認められる」が保健師・看護師及び准看護師で多かった。同行職種ごとの算定患者数は以下のとおりであった。

図表2-144　複数名訪問が必要な理由と同行職種ごとの算定患者数

	1)保健師・看護師				2)准看護師				3)看護補助者			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
a. 理由1）	n=84	15.6	29.7	2.0	n=49	2.4	8.1	0.0	n=44	0.0	0.0	0.0
b. 理由2）	n=83	9.4	14.2	2.0	n=48	1.7	4.6	0.0	n=44	0.2	1.1	0.0
c. 理由3）	n=96	27.4	50.5	7.5	n=50	4.1	12.0	0.0	n=44	1.1	6.7	0.0
d. 理由4）	n=62	14.8	27.1	2.0	n=43	2.4	10.0	0.0	n=42	1.9	11.7	0.0
	4)作業療法士				5)精神保健福祉士				6)その他			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
a. 理由1）	n=54	2.7	7.9	0.0	n=64	3.2	7.4	0.0	n=43	0.0	0.0	0.0
b. 理由2）	n=54	3.0	6.9	0.0	n=60	3.6	6.8	0.0	n=42	0.2	1.2	0.0
c. 理由3）	n=59	3.0	6.7	0.0	n=82	10.7	18.4	1.0	n=43	0.0	0.2	0.0
d. 理由4）	n=50	5.0	14.7	0.0	n=58	6.0	13.2	0.0	n=40	0.0	0.0	0.0

理由1)　暴力行為、著しい迷惑行為、器物破損行為等が認められる者
理由2)　利用者の身体的理由により一人の看護師等による訪問看護が困難と認められる者
理由3)　利用者及びその家族それぞれへの支援が必要な者
理由4)　その他

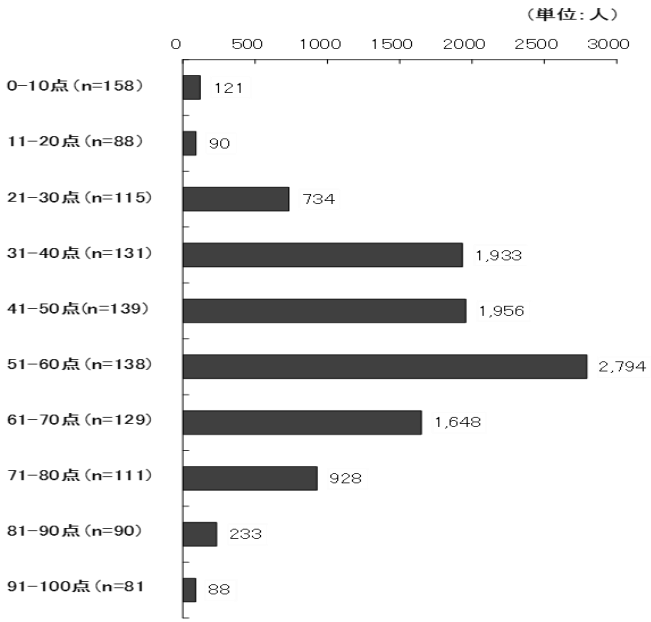
施設調査（病院票）の結果㉘

＜精神科訪問看護の状況（GAF尺度の判定値ごとの患者数）＞（報告書p126,127）

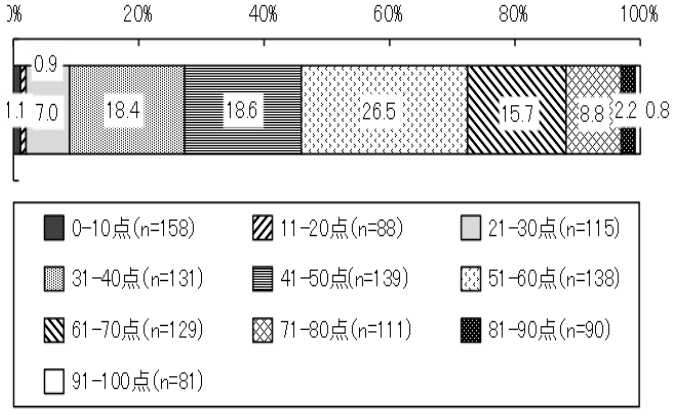
【合計患者数】
精神科訪問看護の患者の月の初日の訪問看護時におけるGAF尺度により判定した値（カテゴリ）ごとの患者数について、回答のあった施設の合計値をみると、「51-60点」（2,794人、26.5%）で最頻値となっていた。

【1施設当たりGAF得点の分布】
精神科訪問看護の患者の月の初日の訪問看護時におけるGAF尺度により判定した値（カテゴリ別）ごとの患者数をもとに、回答のあった施設の平均GAF得点をみると、「50-60点未満」（53施設）、「40-50点未満」（49施設）の順に多かった。

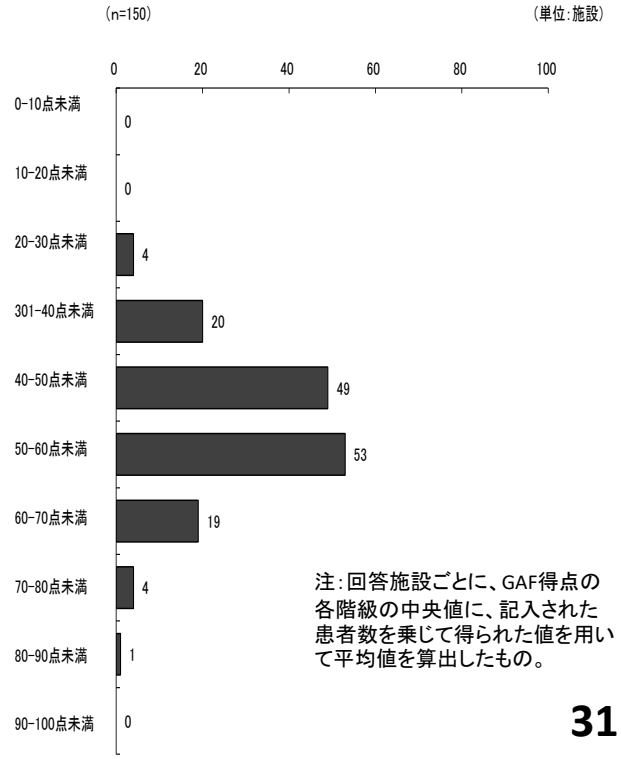
図表2-145 精神科訪問看護の患者の月の初日の訪問看護時におけるGAF尺度により判定した値ごとの患者数（令和2年10月1日）



図表2-146 精神科訪問看護の患者の月の初日の訪問看護時におけるGAF尺度により判定した値ごとの患者数（令和2年10月1日）



図表2－147 月の初日の訪問看護時におけるGAF尺度の判定値の各回答施設の平均得点の分布



注：回答施設ごとに、GAF得点の各階級の中央値に、記入された患者数を乗じて得られた値を用いて平均値を算出したもの。

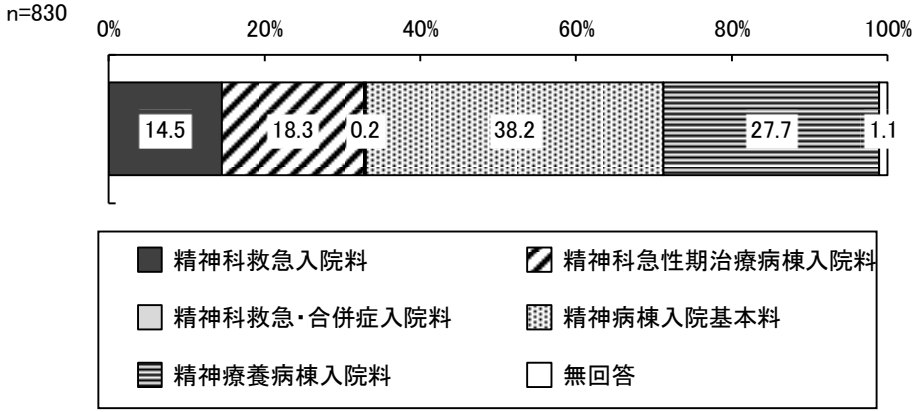
施設調査（病棟票）の結果①

＜入院基本料について＞（報告書p135,136）

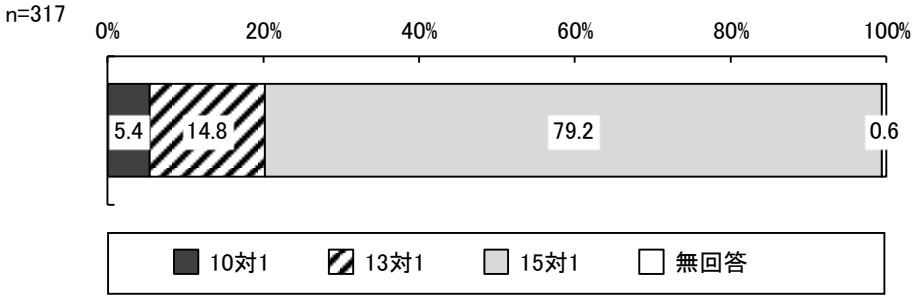
回答病棟の入院基本料、精神病棟入院基本料の内訳、入院基本料等を算定している病棟数および許可病床数は以下のとおりであった。

① 病棟の入院基本料等

図表3−1 病棟の入院基本料



【精神病棟入院基本料を選択した病棟】



図表3 - 2 許可病床数（病棟入院基本料別、複数回答）

② 入院基本料等を算定している病棟数および許可病床数

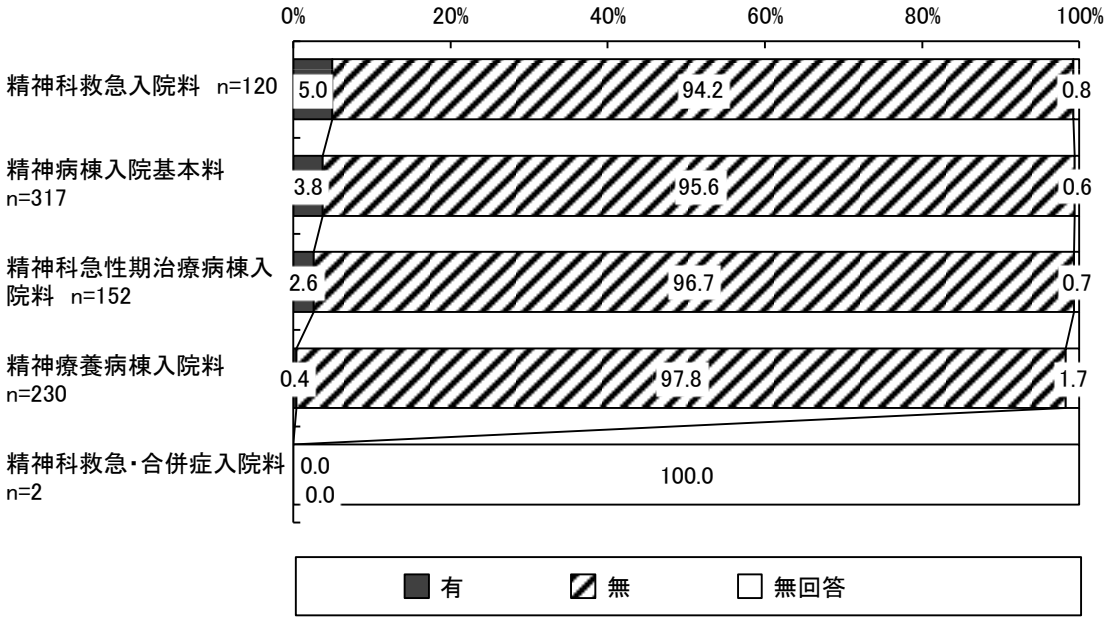
		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=118	55.0	32.8	48.0
精神病棟入院基本料	n=292	53.4	19.6	52.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=141	47.7	9.2	49.0
精神療養病棟入院料	n=221	59.9	25.5	59.0
精神科救急・合併症入院料	n=1	40.0	0.0	40.0

施設調査（病棟票）の結果②

＜新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ状況＞（報告書p137）

回答病棟における令和2年10月1か月間の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ状況は以下のとおりであった。

図表3-3　新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ状況
（入院基本料等別）



【「有」の病棟の令和2年10月1か月間における患者数】

		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=6	3.2	3.1	2.0
精神病棟入院基本料	n=9	26.6	22.6	20.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=3	2.0	0.8	2.0
精神療養病棟入院料	n=1	1.0	0.0	1.0
精神科救急・合併症入院料	n=0	－	－	－

注：新型コロナウイルス感染症の疑似症と診断された患者を含む。

施設調査（病棟票）の結果③

＜入院患者の状況＞（報告書p138,145）

回答病棟における令和2年10月30日時点の在院患者数は以下のとおりであった。

図表3-5　在院患者数（在院期間別）

	令和2 年10月30日時点での在院患者数			
		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=119	46.2	27.4	42.0
精神病棟入院基本料	n=308	45.3	36.8	44.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=148	36.4	10.0	37.5
精神療養病棟入院料	n=227	55.5	24.6	53.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	26.5	4.5	26.5

	1週間未満				1週間以上2週間未満				2週間以上1か月未満			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=113	5.2	3.5	5.0	n=113	5.0	3.7	5.0	n=113	11.6	7.3	11.0
精神病棟入院基本料	n=273	1.4	1.8	1.0	n=270	1.5	1.7	1.0	n=283	2.9	3.5	2.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=140	3.4	2.2	3.0	n=139	3.2	1.9	3.0	n=142	7.0	3.9	6.5
精神療養病棟入院料	n=184	0.3	0.8	0.0	n=185	0.4	0.9	0.0	n=190	0.8	1.4	0.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	3.0	1.0	3.0	n=2	4.0	0.0	4.0	n=2	7.5	0.5	7.5

	1か月以上2か月未満				2か月以上3か月未満				3か月以上6か月未満			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=113	13.2	9.2	12.0	n=113	7.5	6.2	6.0	n=107	2.2	2.9	1.0
精神病棟入院基本料	n=283	3.6	4.0	2.0	n=287	3.0	4.0	2.0	n=287	4.4	4.2	4.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=143	9.8	4.1	10.0	n=141	6.5	4.1	6.0	n=137	3.2	3.0	3.0
精神療養病棟入院料	n=196	1.3	1.6	1.0	n=190	1.4	2.4	1.0	n=204	3.3	4.9	3.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	7.0	2.0	7.0	n=2	3.5	0.5	3.5	n=2	1.0	1.0	1.0

	6か月以上1年未満				1年以上5年未満				5年以上			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=100	0.8	1.2	0.0	n=100	0.8	1.2	0.0	n=98	0.2	0.7	0.0
精神病棟入院基本料	n=291	4.6	5.5	4.0	n=288	11.3	8.5	11.0	n=288	11.8	11.2	10.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=129	1.3	1.7	1.0	n=128	1.7	2.1	1.0	n=126	0.9	1.8	0.0
精神療養病棟入院料	n=206	4.8	4.0	4.0	n=208	19.0	10.1	18.0	n=206	25.6	15.1	24.0
精神科救急・合併症入院料	n=1	0.0	0.0	0.0	n=1	0.0	0.0	0.0	n=2	0.5	0.5	0.5

図表3-8　在院患者数（向精神薬の使用状況別）

	主傷病に対して薬物療法を受けている患者数				（うち）クロザピンを投与している患者数			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=112	42.4	28.0	40.0	n=107	0.9	1.9	0.0
精神病棟入院基本料	n=285	36.3	18.7	38.0	n=282	1.1	2.2	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=136	33.2	13.2	35.0	n=130	0.5	1.3	0.0
精神療養病棟入院料	n=211	50.9	27.2	51.0	n=198	0.5	1.7	0.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	26.5	4.5	26.5	n=2	0.0	0.0	0.0

	（うち）持続性抗精神病注射薬剤（LAI ）				（c のうち）非定形LAI を投与している患者数			
		平均値	標準偏差	中央値		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=110	2.8	6.0	1.0	n=105	1.9	5.6	0.0
精神病棟入院基本料	n=277	3.1	4.3	1.0	n=266	1.8	3.1	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=130	1.6	1.9	1.0	n=123	1.1	1.7	0.0
精神療養病棟入院料	n=204	1.6	2.6	0.0	n=198	0.6	1.5	0.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	0.0	0.0	0.0	n=2	0.0	0.0	0.0

施設調査（病棟票）の結果④

＜持続性抗精神病注射薬剤（LAI）の投与開始人数＞（報告書p151）

令和2年10月30日1か月間で当該病棟において持続性抗精神病注射薬剤（LAI）の投与を開始した人数は以下のとおりであった。

図表3-12　持続性抗精神病注射薬剤（LAI）の投与開始人数（入院基本料別）

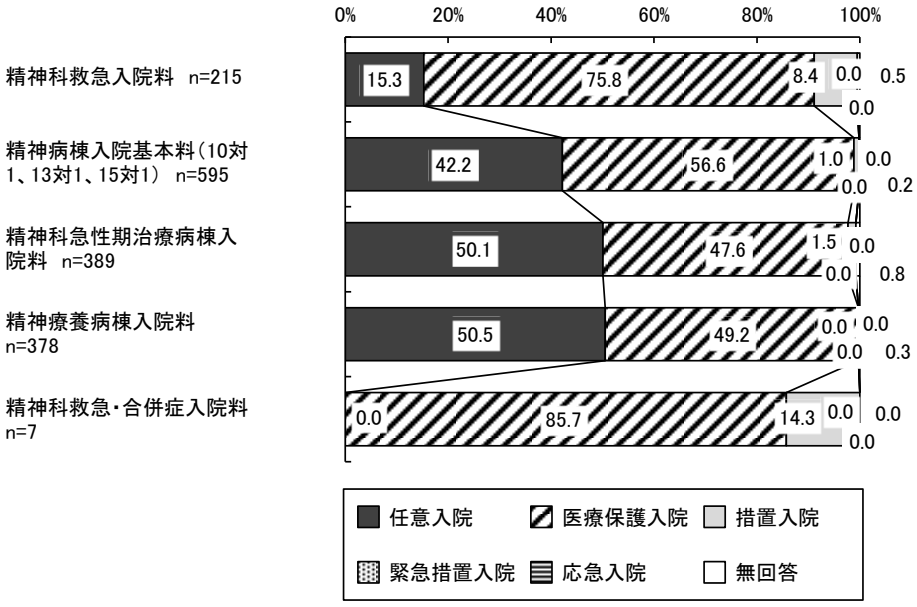
		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=119	0.9	1.5	0.0
精神病棟入院基本料	n=297	0.7	4.6	0.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=144	0.7	1.0	0.0
精神療養病棟入院料	n=216	0.2	0.9	0.0
精神科救急・合併症入院料	n=2	0.5	0.5	0.5

入院患者票の結果①

＜現在の状況（入院形態）＞（報告書p172,174,183）

令和2年10月1日時点の入院形態（入院基本料別）、入院期間別にみた主傷病の状況及び患者のGAF尺度の状況は以下のとおりであった。

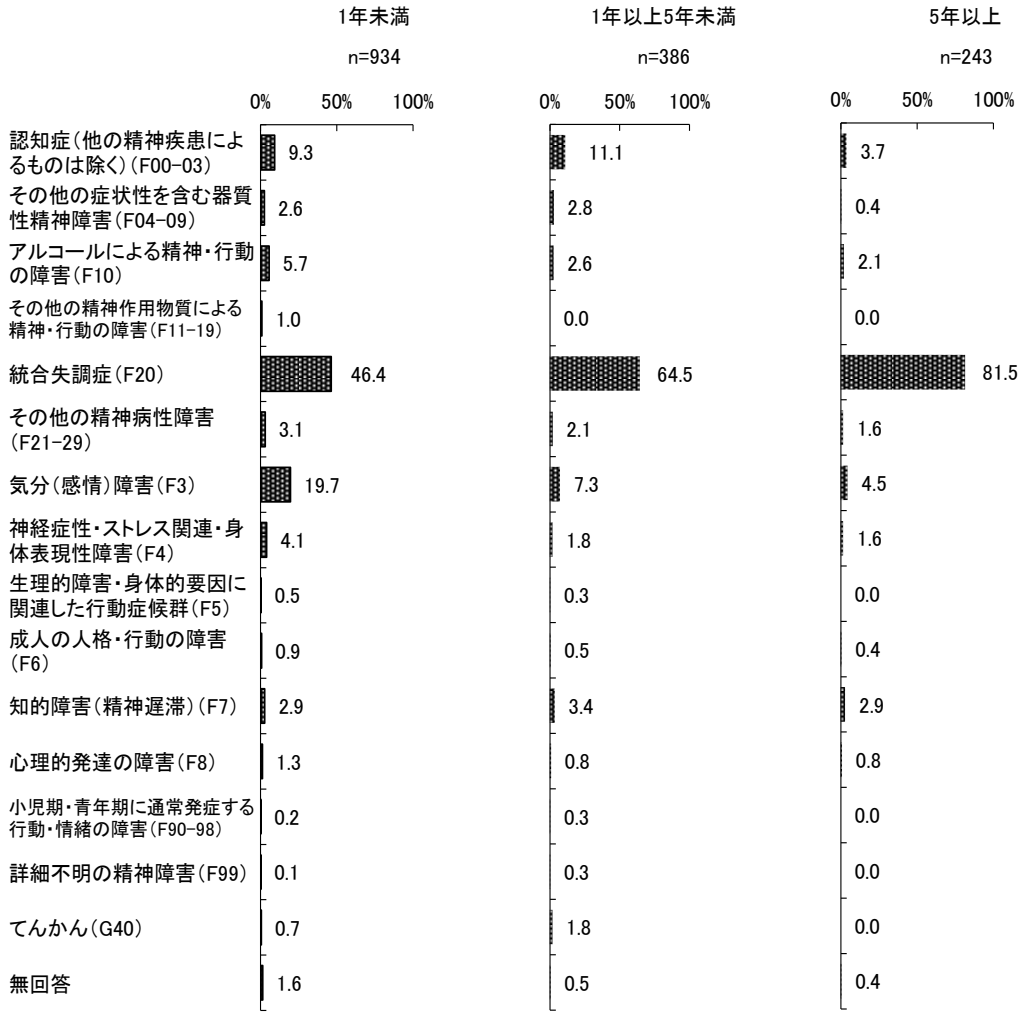
図表4-26　現在の入院形態（入院基本料別）



図表4－38　患者のGAF尺度・現時点（入院基本料別 ）

		平均値	標準偏差	中央値
精神科救急入院料	n=100	40.2	17.0	40.0
精神病棟入院基本料（10対1、13対1、15対1）	n=263	36.0	17.2	30.0
精神科急性期治療病棟入院料	n=167	43.5	18.2	40.0
精神療養病棟入院料	n=322	26.7	8.8	25.0
精神科救急・合併症入院料	n=6	41.0	13.2	42.5

図表4－29　主傷病（入院期間別 ）

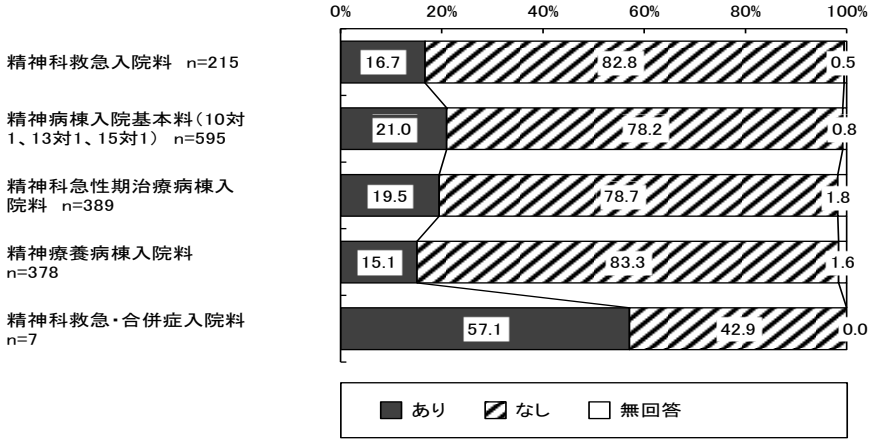


入院患者票の結果②

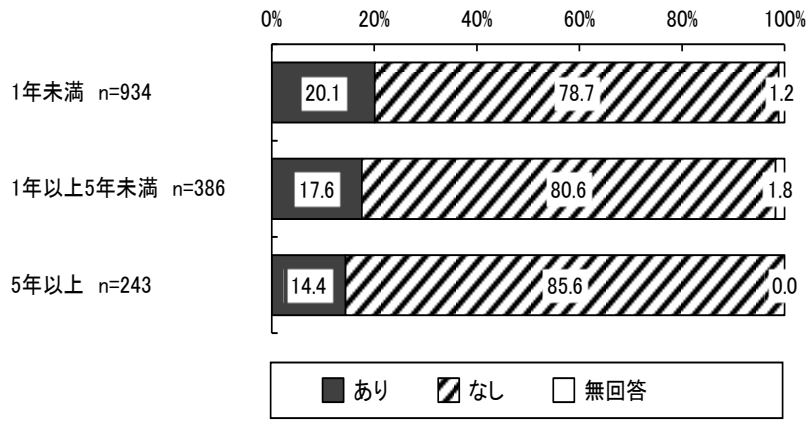
＜現在の状況（入院形態）＞（報告書p177,188）

令和2年10月1日時点の入院患者の身体合併症の状況（入院基本料別及び入院期間別）、患者のADL区分の状況（入院基本料別及び入院期間別）は以下のとおりであった。

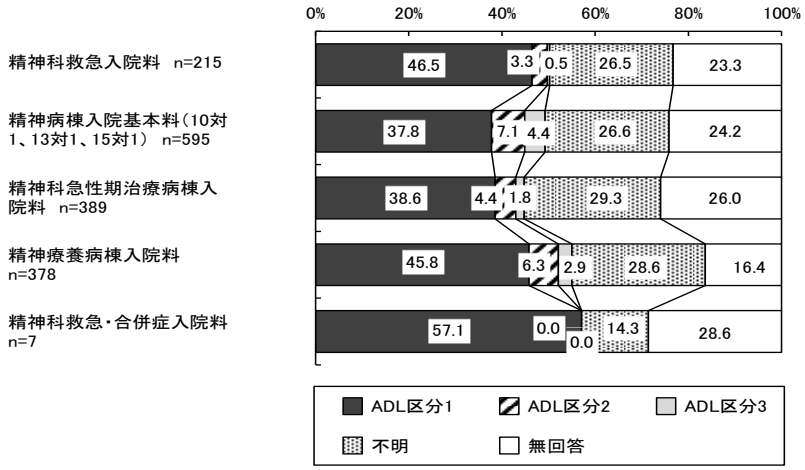
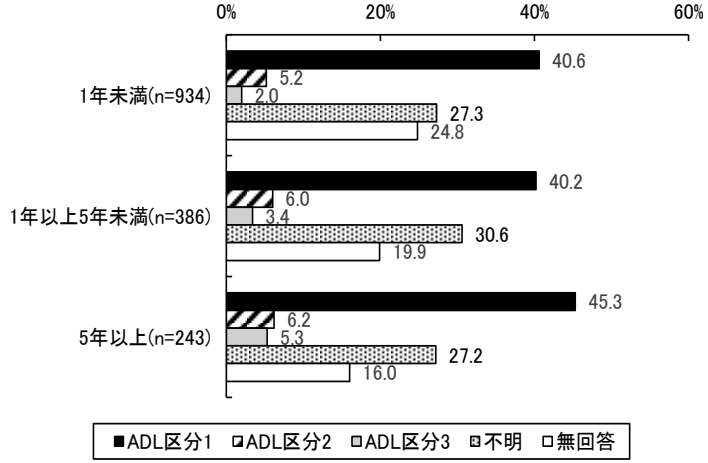
図表4－32　身体合併症の有無（入院基本料別、複数回答）



図表4－33　身体合併症の有無（入院カテゴリー別）



図表4－46　ADL区分（入院基本料別 ）



図表4－47　ADL区分（入院期間別）